



市民による
川越生き物調査
2017年～2021年

かわごえ環境ネット

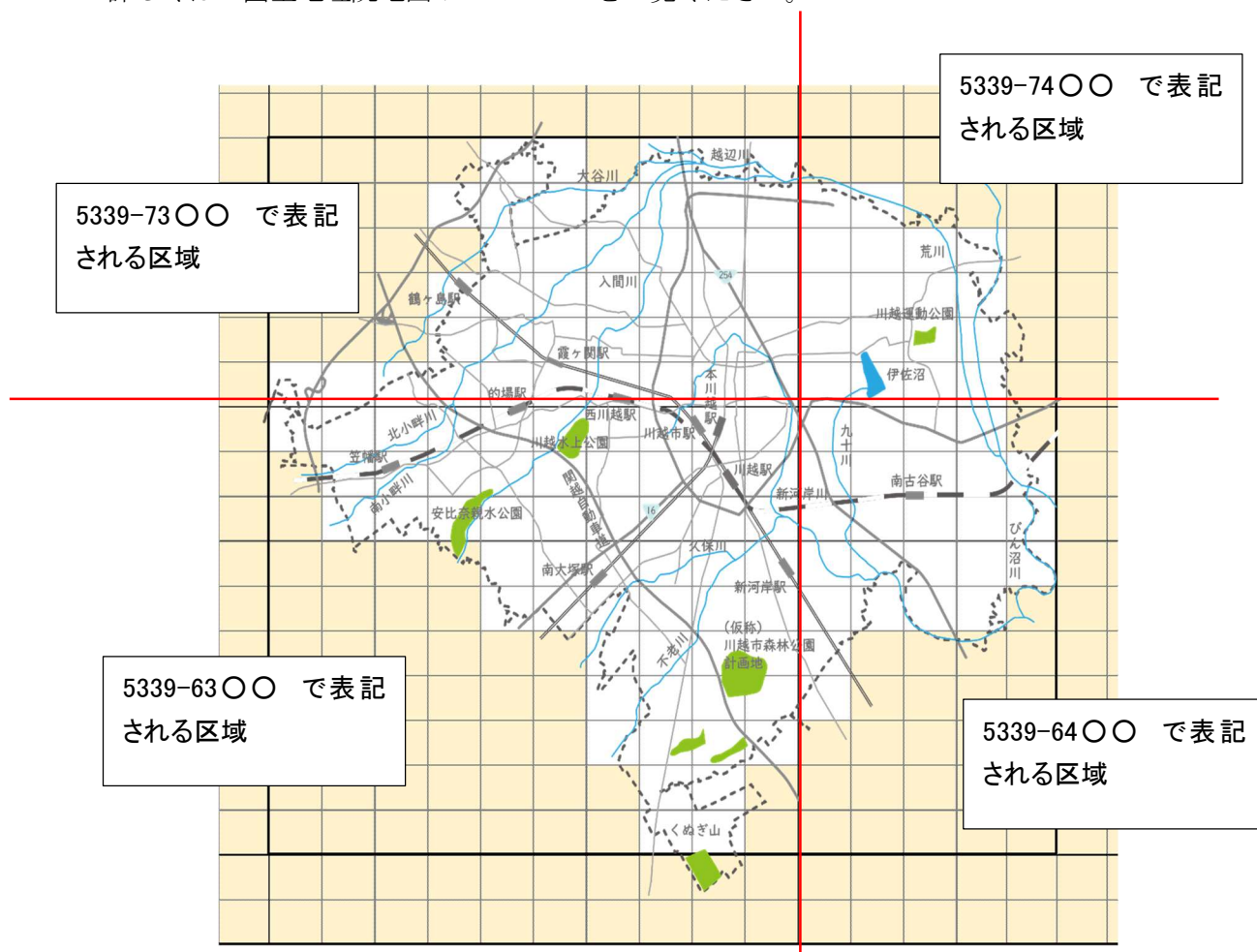
目次

はじめに	2	6. 両生類	40
1. 植物	3	7. 哺乳類	41
2. 野鳥	16	8. 魚類 (含む水生動物)	42
3. 昆虫	23	9. その他の動物	44
4. クモ	37	10. 菌類	45
5. 爬虫類	39	おわりに	46

メッシュコードについて

メッシュコードは緯度、経度を基に区割りされた地球規模の地番です。1 km四方の碁盤に 4 桁+4 桁又は 6 桁の番号がついていて世界中で通用する番号です。川越市は下図のように 141 のメッシュコードがあります。赤線の所で大きなブロックの境界にあり、番号が不連続です。近年は生き物調査では確認の場所をメッシュコードで記載することが多くなっていて、今回の「かわごえ生き物調査」もこの方法に倣いました。

詳しくは 国土地理院地図ホームページをご覧ください。



はじめに

川越には一体、どんな動植物がどれくらいいるのか？最近では外来種ばかりが目立つけれど、在来種はどうなっているのか？生き物調査はこのような疑問から始まりました。2016年3月に「第三次川越市環境基本計画」及び「川越市緑の基本計画」が策定され、その中に市民参加による生き物調査が位置づけられました。

かわごえ環境ネット自然環境部会は2017年から環境政策課と協働して生き物調査に取り組むことになりました。一般市民と自然環境部会と合わせて20数名の調査員で進めてきて、ここで5年間が経過しましたので中間まとめとして2021年10月末までの調査について報告します。データ数は動植物合わせて21000件ほど、川越市のメッシュコード数141のうち、ほぼ全域をカバーできました。また、寄せられたデータの中で名称が不明なもの、総称（サクラ、ヤナギ、サギ、トンボなど）で書かれたもの、川越には生息不能なもの（海辺の生き物）などは割愛させていただきました。それ以外は報告のまま記載しています。アレっと思われるものもあるかと思いますが、そのあたりをお含みの上ご覧下さい。

概 略

分類ごとの報告数をみると植物が一番多く、次いで昆虫、野鳥と続きます。それ以外の魚類、爬虫類、両生類、哺乳類などは出会う場所や季節が限られていたり、元々種類や個体数が少なかったりという難しさがあります。

たまたま運よく（悪く？）蛇に出くわしたとか、広い河原のやぶでひょっこりタヌキに出会ったなどの情報ですから、件数が少なくなります。

また、市民の方が気軽に調査に参加できるように、「指標種」として67種が指定されています。（右表）身近に見られる在来種、外来種などが選ばれていますが、中には見つけることが難しくなった種もあります。

調査報告はこれらの種に限らず広く報告されています。指標種のデータについては市のホームページに掲載される予定ですので、そちらをご覧ください。

生き物調査 で検索

※尚、市と本書の報告件数は分類の違いや総称の計上の違いでわずかに数値が異なります。

分類	川越市（5年間）		埼玉県記録種数とRD種数	
	報告件数	種数	記録種数	RD掲載種数
植物(維管束)	12151	834	2300	764
鳥類	3920	126	313	101
昆虫	4216	366	9826	408
クモ	157	33	416	21
爬虫類	193	9	15	9
両生類	127	8	17	13
哺乳類	38	8	56	40
魚類・円口類	71	19	93	14
菌類（キノコ）	265	170		53
その他	85	19	563	102
合計	21223	1592	13599	1525

指標種 67種				
	植物	鳥類	昆虫	爬虫類
1	アレチウリ	ガビチョウ	モンシロチョウ	カナヘビ
2	オオブサモ	カルガモ	ツマグロヒョウモン	アカミミガメ
3	オオブタクサ	カワセミ	ジャコウアゲハ	ニホンヤモリ
4	オギ	キジバト	アカボシゴマダラ	アオダイショウ
5	カタバミ	コゲラ	ヤマシジミ	4
6	カントウタンポポ	コサギ	ナミアゲハ	
7	クチナシ	シジュウカラ	クロアゲハ	両生類
8	ジシバリ	スズメ	シオカラトンボ	トウキョウダルマガエル
9	シュンラン	ツグミ	ギンヤンマ	ニホンアカガエル
10	ススキ	ツバメ	アキアカネ	2
11	セイバンモロコシ	ヒバリ	カブトムシ	
12	セイヨウタンポポ	ヒヨドリ	ナナホシテントウ	
13	セリ	モズ	ショウリヨウバッタ	哺乳類
14	タチツボスミレ		イナゴ	ホンドキツネ
15	チガヤ		オオカマキリ	ホンドタヌキ
16	ネジバナ		ヒグラシ	アブラコウモリ
17	ハルジオン		ミンミンゼミ	3
18	ヘクソカズラ		ニホンミツバチ	
19	ホトケノザ		18	その他
20	ミズヒキ			マルタニシ
21	ミゾカクシ		クモ	ドジョウ
22	アカマツ(樹木)		ジョロウグモ	2
23	イチヨウ(樹木)		1	
24	コナラ(樹木)			
	24	13	19	11

1. 植物

この5年間の植物報告件数は12000件ほどです。その中には同じものが別名で記載されているもの、種が特定できないもの（ノギクなど）、メッシュコードの記載がないものなどがあり、これらは止む無く統計から省きました。報告された植物についてはほとんどが維管束植物で、蘚苔類が2種ほどありました。菌類は別項目で哺乳類のあとに記載されています。

表1. が年度ごとの報告件数ですが、2017年頃は指標種中心の報告が多く件数も種類も少なめです。次第に軌道に乗ってきて5年間で835種の観察ができました。表2. は埼玉県のデータですが、維管束植物が2300種ですから、834種はその36%にあたりますので、結構頑張ったと言えるでしょう。

表 1.

年度	報告件数	種数
2017	238	74
2018	307	92
2019	1659	378
2020	4365	675
2021	5582	725
統合	12151	834

表 2.

埼玉県在来植物数	
維管束植物	2300
蘚苔類	781
珪藻類	744
その他の藻類	791
地衣類	425
菌類	527
合計	5568

※埼玉県レッドデータブック2011植物編より

1. 報告種について

報告種については後半の9pから15pに一覧表があるのでご覧ください。この中で蘚苔類が2種、シダ類が36種ありますが、どちらかという日陰の存在で調査員があまり目を向けなかったと思われます。埼玉県のリストを見ますと珪藻類、地衣類も多いようですが、今回は報告はありません。蘚苔類2種以外はすべて維管束植物でした。維管束植物を草本、木本で見ますと、**木本が188種**、その中には高木になる種、低木やつる性の種も含まれています。植物種の**22%が木本**ということになります。

絶滅危惧種は50種でした。後のページで詳しく報告しますが、この中には川越では生息していないと思われるものもあります。オオヤマレンゲは標高1000m以上で、生息地域も限られています。オニオトコヨモギは北海道、青森の一部での生息です。オナモミ、イヌノフグリも専門家の見解では川越にはないでしょうとのこと。メヒルギも亜熱帯地方の海辺なので、どうかと思われます。この報告書は市民調査員から寄せられたものをまとめたので、取捨選択はしていません。アレっと思われるものがあるかも知れません。そのあたりをお含みの上ご覧ください。

外来種については気になるところです。放棄された田畑に一面にセイタカアワダチソウが繁茂しているのはよく見る風景です。河川の土手にはオオブタクサ、アレチウリ、セイバンモロコシなどがびっしりと生えています。外来種にはいくつかのランクがあり、アレチウリ（一覧表No.422）は[外来1特緊]とあります。後のページで紹介します。

科について見てみましょう。現在、DNAによる分類で科の再編が進んでいてAPG分類で表記されるようになりました。オオイヌノフグリがゴマノハグサ科からオオバコ科になったり、ナルコユリがクサスギカズラ科になったりと、イメージが描きにくくなりました。

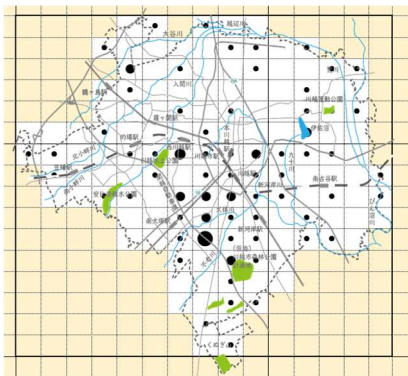
一番多かったのはキク科81種。次いでイネ科66種、カヤツリグサ科41種、バラ科37種、マメ科33種、タデ科24種、シソ科21種でした。キク科は外来種でも頑張っていて、セイタカアワダチソウ、オオブタクサ、コセンダングサ、セイヨウタンポポなどこれでもかというほど、繁栄しています。またイネ科も空き地や道路端など、本来牧草であったものなどが逸出し、埋め尽くしている風景を目にします。

2. 報告の多かった種

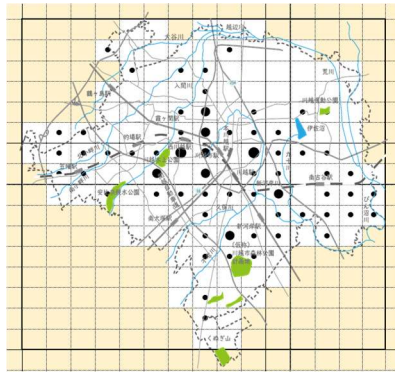
右の表は報告数のランキングです。ナンバー1はヘクソカズラですが、意外に思われるかもしれません。セイヨウタンポポやオオイヌノフグリ(39位)の方がよほど目につきます。ヘクソカズラは葉をもむと臭いにおいがするというので、植物としては最悪の名前を付けられていますが、よく見ると可愛い花です。林でも住宅地でもどこにでもあるようです。次いでセイヨウタンポポですが、春先から初冬までだらだらと花が咲いています。日の当たるところならコンクリートの割れ目にも見ることがあります。この表にある植物はどれもお馴染みのもので、外来種が多いのも特徴です。

順位	名前	報告件数
1	ヘクソカズラ	172
2	セイヨウタンポポ	156
3	オッタチカタバミ	148
4	ヤブガラシ	129
5	ツユクサ	120
6	ユウゲシヨウ	114
7	カタバミ	113
8	ハルジオン	108
9	セイタカアワダチソウ	106
10	ホトケノザ	106
11	コナラ(樹木)	101
12	ヒメジョオン	100
13	ヨモギ	100
14	エノキ(樹木)	97
15	オオブタクサ	96
16	アカメガシワ(樹木)	94
17	スギナ	92
18	カラスノエンドウ	90
19	アメリカフウロ	88
20	メヒシバ	88

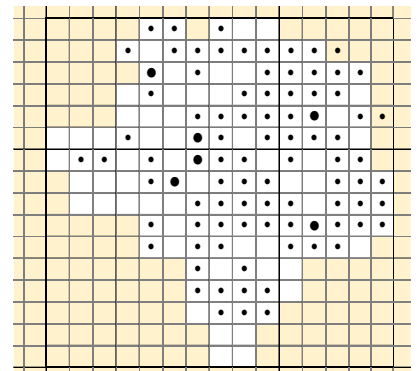
写真と分布図



ヘクソカズラ分布



セイヨウタンポポ分布



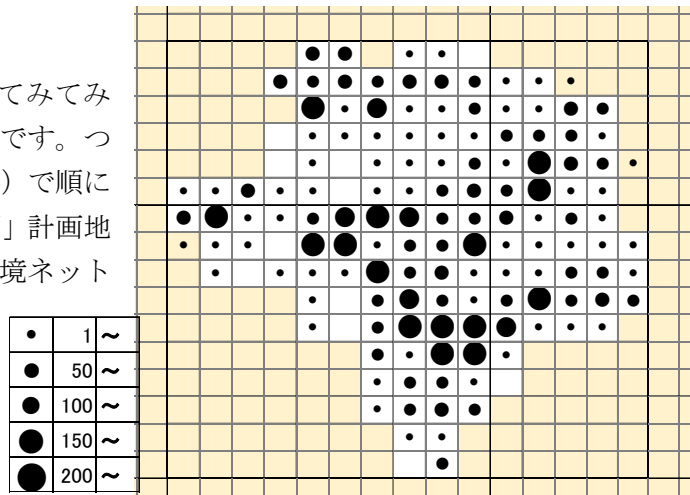
オッタチカタバミ分布

これらは川越市内に広く分布していることがよくわかります。大きな●は5以上の報告数、小さな丸はそれ以下を表します。空白の所は「ない」のではなく、調査員がたまたま生息する場所や、時期に遭遇しなかったということでしょう。メッシュコード1つ分は1km四方あるのですべて歩くのは大変です。

メッシュコード別の報告件数

では次にメッシュコード別の報告数についてみてみましょう。ナンバー1は5339-6385(739件)です。ついで、5339-6396(633件)、5339-6348(597件)で順に池辺公園、水上公園、「(仮称)川越市森林公園」計画地のあるメッシュコードです。これらの場所は環境ネット自然環境部会が長年にわたって観察を続けているので報告数が多くなっています。

右の分布図で大きな●は200件以上です。伊佐沼、寺尾調節池なども同様に件数が多くなっています。

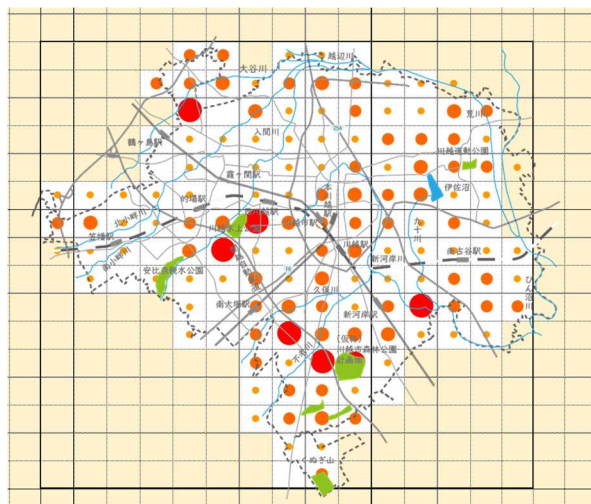


メッシュコード別の植物の種数

植物の種類が多いのはどこでしょうか。メッシュコード別に見てみましょう。大きな●は200以上の種があるところです。東から寺尾調節池、「(仮称)川越市森林公園」計画地、今福の林、水上公園、池辺公園です。自然の豊かな、生き物の多いところですが、前項でも述べたように、観察回数が多いことも一因です。

「(仮称)川越市森林公園」計画地は4つのメッシュコードにかかっていますが、合わせるとここで350種ほどの記録です。

●	1	～
●	50	～
●	100	～
●	150	～
●	200	～



3. 絶滅危惧種

植物種一覧表から取り出した絶滅危惧種は右表のとおりです。都市化の進む川越でよくぞ残ってくれた、と思いますが、次世代の為に守っていくのは市民の役目でしょう。以下は写真と簡単な解説です。

イチョウウキゴケ

ミズワラビ

どちらも農業を使わない田んぼに出る



コウホネ
新河岸川に数か所生息



アマナ
池辺公園、水上公園に生息



シュンラン
広範囲に生息



サイハイラン
個体数は非常に少ない



	科名	和名	埼玉2011・外来種	環境省2017
2	(蘚苔類ウキゴケ科)	イチョウウキゴケ	[増絶危Ⅱ・VU]	[全準絶・NT]
8	(トクサ科)	イヌスギナ	[増準絶・NT]	
10	(ハナヤスリ科)	アカハナワラビ	[増準絶・NT]	
12	(マツバラ科)	マツバラ	[増絶危ⅠA・CR]	[全準絶・NT]
17	(イノモトソウ科)	ミズワラビ	[増準絶・NT]	
53	(スイレン科)	コウホネ	[増準絶・NT]	
60	(ドクダミ科)	ハンゲショウ	[増絶危Ⅱ・VU]	
94	(ユリ科)	アマナ	[増準絶・NT]	
99		キバナノホトトギス	[在来固有]	[全絶危Ⅱ・VU]
101	(ラン科)	シラン	[増絶危ⅠB・EN]	
102		エビネ	[増絶危ⅠB・EN]	[全準絶・NT]
103		ギンラン	[増絶危Ⅱ・VU]	
104		キンラン	[増絶危ⅠB・EN]	[全絶危Ⅱ・VU]
105		ササバギンラン	[増準絶・NT]	
106		サイハイラン	[増準絶・NT]	
107		シュンラン	[増準絶・NT]	
108		マヤラン	[増情不・DD]	[全絶危Ⅱ・VU]
109		タシロラン	[増情不・DD]	[全準絶・NT]
110		オノノヤガラ	[増絶危Ⅱ・VU]	
111		クモキリソウ	[増準絶・NT]	
112		ノヤマトンボ	[増準絶・NT]	
113		トンボソウ	[増絶危ⅠA・CR]	
126	(ヒガンバナ科)	キツネノカミソリ	[増準絶・NT][在来固有]	
193	(カヤツリグサ科)	シロガヤツリ	[増絶危Ⅱ・VU]	
199		ヒメホタルイ	[増絶危Ⅱ・VU]	
278	(ツツラフジ科)	ツツラフジ	[増絶危Ⅱ・VU]	
281	(キンボウゲ科)	アズマイチゲ	[増準絶・NT]	
289		ヒメウス	[増絶危Ⅱ・VU]	
290		カラマツソウ	[増絶危ⅠB・EN][在来固有]	
292		ノカラマツ	[増絶危Ⅱ・VU]	[全絶危Ⅱ・VU]
302	(タコノアシ科)	タコノアシ	[増絶危Ⅱ・VU]	[全準絶・NT]
406	(ブナ科)	アカガシ	[増準絶・NT]	
439	(カタバミ科)	オオヤマカタバミ	[増絶危ⅠB・EN]	[全絶危Ⅱ・VU]
442	(トウダイグサ科)	ノウルシ	[増絶危Ⅱ・VU][在来固有]	[全準絶・NT]
459	(スマレ科)	ヒゴスミレ	[増準絶・NT][在来固有]	
521	(アブラナ科)	コイヌガラシ	[増準絶・NT]	[全準絶・NT]
526	(オオバヤドリギ科)	マツグミ	[増絶危ⅠB・EN]	
601	(サクランウ科)	ヌマトライノオ	[増準絶・NT]	
612	(ツツジ科)	ウメガサソウ	[増絶危Ⅱ・VU]	
614		シャクジョウソウ	[増準絶・NT]	
618		アズマシャクナゲ	[増準絶・NT][在来固有]	
633	(キキョウ科)	センブリ	[増絶危Ⅱ・VU]	
634	(キョウチクトウ科)	チョウジソウ	[増絶危ⅠB・EN]	[全準絶・NT]
655	(ムラサキ科)	ホタルカズラ	[増絶危Ⅱ・VU]	
676	(オオバコ科)	カワヂシャ	[増絶危Ⅱ・VU]	[全準絶・NT]
677	(ゴマノハグサ科)	キタミソウ	[増絶危ⅠB・EN]	[全絶危Ⅱ・VU]
710	(ハマウツボ科)	クチナシグサ	[増準絶・NT]	
713	(キツネノマゴ科)	ハグロンソウ	[増準絶・NT]	
783	(キク科)	ノニガナ	[増準絶・NT][在来固有]	
830	(ガマズミ科)	ゴマギ	[増準絶・NT]	

キンラン
野生ランの女王とも



ギンラン
白い花はあまり開かない



マヤラン
菌従属栄養植物 根、葉はない



オノノヤガラ
腐生植物 ナラタケと共生



タシロラン
腐生植物 常緑樹林内



ノヤマトンボ
白いトンボのような花が咲く



クモキリソウ
個体数は少ない



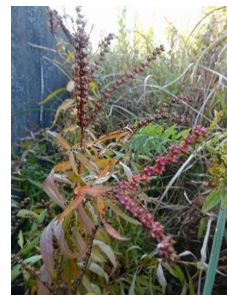
キツネノカミソリ
池辺公園、市民の森 8 号に



アズマイチゲ
池辺公園に



タコノアシ
半湿地性の場所



ノニガナ
水田の一画に



アカガシ
喜多院に 3 本ある



クチナシグサ
半寄生植物 雑木林



キタミソウ
2018 年伊佐沼で確認



絶滅危惧種約 50 種の中に安泰なものはいくら多くはありません。中には数株しか確認されていないものもあります。生息場所が開発されると丸ごと失われます。また盗掘による消失もあり、ランはラン菌と共生しているものが多く、場所を移すと枯れます。

4. 川越における希少種

国や県の絶滅危惧種に指定されていませんが、イチヤクソウ、オドリコソウ、ウマノスズクサ、ヤマエンゴサク、ジロボウエンゴサク、フデリンドウ、ワレモコウ、リンドウ、ウバユリなどは、今回の調査でも生息場所や個体数が限られており、川越版レッドデータ種と言えましょう。



イチヤクソウ：雑木林の林床に生息。菌類と共生する菌根植物なので移植はなじまない。生息地は限られる

オドリコソウ：在来種だが川越では 川越市森林公園計画地と水上公園の2個所で確認されているのみ。



ヤマエンゴサク：水上公園の河畔に保護されている



ジロボウエンゴサク：雑木林の林床に生息。市内で数箇所確認されている



ウバユリ：池辺公園に 80 株ほど生息
本来、山域の種だが由来はわからない
開園当初からあり変わりなく生存



リンドウ：
雑木林などで見られるが、生息箇所は少ない。
フデリンドウはさらに少なく3か所ほど

ジャコウアゲハ
ウマノスズクサを食草としている



ワレモコウ



小畔川土手の調査



ウマノスズクサ

川土手は近年、外来種の繁茂が旺盛で機械による草刈りの回数が増えている。以前はワレモコウやウマノスズクサは普通に生えていたが、今は開花する前に刈り取られてしまう。草刈後に調査をするとそれでも幼芽が出ている。

5. 要注意外来種

外来種は多くの種がありますが、旺盛な繁殖力で在来種を駆逐するなどの問題のある種が川越でも増えてきました。平成16年に外来生物法が定められ、その中の「緊急対策外来種」、「重点対策外来種」などについて紹介します。



水上公園 アレチウリ



寺尾調節池 アレチウリ・オオブタクサ

水上公園は入間川の河川敷に至るエリアは悉くアレチウリに覆われていて、河畔の樹木にまで登り始めている。寺尾調節池の法面もほぼアレチウリに占有されていて、上部の方はオオブタクサが占めている。他のものはほとんど見当たらない



セイバンモロコシ



セイタカアワダチソウ



オオフサモ



オオカワヂシャ

6. 生物多様性保全のために

川越で、大まかに植物を見回すと圧倒的に外来種が優先です。耕作放棄された田畑、河川敷や土手はセイタカアワダチソウ、アレチウリ、オオブタクサ、セイバンモロコシが覆いつくしています。以前は川土手はススキが優占種でしたが、キャタピラーの除草機械を使うところからセイバンモロコシやアレチウリに置き換わるようになりました。種子が機械に付着し、次々と拡散しているようです。

かつて、入間川の土手には秋になるとワレモコウが咲いていましたが、今はまず、見ることは出来ません。土手は悉く、強豪外来種に占拠されています。外来種に圧されて消えていった在来種は全国的にもたくさんあります。

しかし、生物多様性保全にとっての一番大きな影響は、開発による生息地の消失です。この間まで緑地だったところが次に行ってみたら更地になっていた、というのは川越ではよくあります。このようにして記録に残されないまま失われた希少種は多々あることでしょう。この度の生き物調査で明らかになった、レッドデータ種、川越においての生息が希少になったものは、市民の理解・協力、川越市の環境配慮指針を拡充などで守っていく必要を痛感します。

SDGsの指標でもありますので、企業・事業者も配慮すべきかと思われます。

次ページから植物種一覧を掲載しています。牧野彰吾氏に依頼し、分類に基づいての順番になっています。アイウエオ順を望む方は市のホームページに掲載される予定ですのでご覧ください。

生き物調査 で検索

植物種一覧

番号枠の は藓苔類

 はシダ類 は樹木 は絶滅危惧種を表す

科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
●菌・地衣・藻・コケ			
1 (藓苔類 ² コケ科)	ゼニゴケ		
2 (藓苔類 ² コケ科)	イチョウウキゴケ	[絶絶危Ⅱ・VU]	[全準絶・NT]
●ヒカゲノカズラ類			
3 (ヒカゲノカズラ科)	トウゲシバ		
4	ヒカゲノカズラ		
5 (イハバ科)	クラマゴケ		
●大葉シダ植物			
6 (トケサ科)	スギナ		
7	トクサ		
8	イヌスギナ	[準準絶・NT]	
9 (ハヤシ科)	オオハナワラビ		
10	アカハナワラビ	[準準絶・NT]	
11	フユノハナワラビ		
12 (マツバラ科)	マツバラ	[絶絶危ⅠA・CR]	[全準絶・NT]
13 (ゼンマイ科)	ゼンマイ		
14 (カニクサ科)	カニクサ		
15 (コバノイシカグマ科)	ワラビ		
16 (イノモトソウ科)	ヒメミズワラビ	[県追加調査]	
17	ミズワラビ	[準準絶・NT]	
18	オオバノイノモトソウ		
19	イノモトソウ		
20 (チャセンシダ科)	トラノオシダ		
21 (ヒメシダ科)	ハシゴシダ		
22	ハリガネワラビ		
23	ヤワラシダ		
24	ミゾシダ		
25	ミドリヒメワラビ		
26 (コウヤワラビ科)	クサソテツ		
27 (メシダ科)	イヌワラビ		
28	ヘビノネゴザ		
29	シケシダ		
30 (オシダ科)	リョウメンシダ		
31	ナガバヤブソテツ		
32	ヤブソテツ		
33	ミドリベニシダ		
34	ミサキカグマ		
35	ベニシダ		
36	オオベニシダ		
37	クマワラビ		
38 (ウラボシ科)	ノキシノブ		
●裸子植物			
39 (ソテツ科)	ソテツ	[外来固有][植栽]	
40 (イチョウ科)	イチョウ	[植栽]	
41 (マツ科)	モミジバフウ	[在来固有]	
42	アカマツ		
43	クロマツ	[植栽]	
44 (コウヤマキ科)	コウヤマキ	[外来固有][植栽]	
45 (ヒノキ科)	ヒノキ	[外来固有][植栽]	
46	サワラ	[外来固有][植栽]	
47	スギ	[外来固有][植栽]	
48	メタセコイア	[植栽]	
49	コノテガシワ	[植栽]	
50	イトヒバ		
51 (イチイ科)	イヌガヤ		
52	キャラボク	[外来固有][植栽]	
●基部被子植物			
53 (スイレン科)	コウホネ	[準準絶・NT]	
54	スイレン	[外来4重点]	

科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
55 (マツバサ科)	シキミ		
56	サネカズラ		
57 (センリョウ科)	フタリスズカ		
58	センリョウ	[植栽]	
59 (ドクダミ科)	ドクダミ		
60	ハンゲショウ	[絶絶危Ⅱ・VU]	
61 (ウマノスズクサ科)	ウマノスズクサ		
62 (モクレン科)	ユリノキ	[植栽]	
63	カラタネオガタマ	[植栽]	
64	タイサンボク	[植栽]	
65	コブシ		
66	ホオノキ	[在来固有]	
67	オオヤマレンゲ	[絶絶危ⅠA・CR]	
68	ウケザキオオヤマレンゲ		
69 (バンレイシ科)	ボポー	[植栽]	
70 (ロウバイ科)	ロウバイ	[植栽]	
71 (クスノキ科)	クスノキ	[植栽]	
72	ヤマコウバシ		
73	タブノキ		
74	シロダモ		
●単子葉類			
75 (ショウブ科)	ショウブ		
76	セキショウ		
77 (サトイモ科)	マムシグサ		
78	カラスビシャク		
79 (オモダカ科)	ミズヒナゲシ	[外来7]	
80 (トチカガミ科)	コカナダモ	[外来4重点]	
81 (ヤマノイモ科)	タチドコロ		
82	ヤマノイモ		
83	ウチワドコロ		
85	ナガイモ	[外来7]	
86	キクバドコロ		
87	ヒメドコロ		
88	オニドコロ		
89 (イヌサフラン科)	ホウチャクソウ		
90	チゴユリ		
91 (サルトリイバラ科)	サルトリイバラ		
92	タチシオデ		
93	シオデ		
94 (ユリ科)	アマナ	[準準絶・NT]	
95	ウバユリ		
96	ヤマユリ	[在来固有]	
97	オニユリ		
98	ヤマジノホトトギス	[在来固有]	
99	キバナノホトトギス	[在来固有]	[全絶危Ⅱ・VU]
100	タイワンホトトギス	[栽培]	
101 (ラン科)	シラン	[絶絶危ⅠB・EN]	
102	エビネ	[絶絶危ⅠB・EN]	[全準絶・NT]
103	ギンラン	[絶絶危Ⅱ・VU]	
104	キンラン	[絶絶危ⅠB・EN]	[全絶危Ⅱ・VU]
105	ササバギンラン	[準準絶・NT]	
106	サイハイラン	[準準絶・NT]	
107	シュンラン	[準準絶・NT]	
108	マヤラン	[準準絶・DD]	[全絶危Ⅱ・VU]
109	タシロラン	[準準絶・DD]	[全準絶・NT]
110	オニノヤガラ	[絶絶危Ⅱ・VU]	
111	クモクリソウ	[準準絶・NT]	
112	ノヤマトンボ	[準準絶・NT]	
113	トンボソウ	[絶絶危ⅠA・CR]	
114	ネジバナ		

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
115	(アヤメ科)	シャガ	[史前帰化]	
116		キショウブ	[外来4重点]	
117		ニワゼキショウ	[外来7]	
118	(ススキノキ科)	ヘメロカリス		
119		ノカンゾウ		
120		ヤブカンゾウ	[史前帰化]	
121	(ヒガンバナ科)	ノビル		
122		ニラ	[外来7]	
123		ハナニラ	[外来5他]	
124		スノーフレーク	[逸出]	
125		ヒガンバナ	[史前帰化]	
126		キツネノカミソリ	[埼玉絶・NT][在来固有]	
127	(クサスギカズラ科)	ハラン	[栽培]	
128		ツルボ	[史前帰化]	
129		オオバギボウシ	[在来固有]	
130		コバギボウシ		
131		ヒメヤブラン		
132		ヤブラン		
133		ジャノヒゲ		
134		ナガバジャノヒゲ		
135		オオバジャノヒゲ	[在来固有]	
136		オオアマナ	[外来7]	
137		ナルコユリ		
138		アマドコロ		
139		キチジョウソウ		
140		オモト	[逸出]	
141	(ヤシ科)	シュロ	[逸出]	
142		トウジュロ	[植栽]	
143	(ツユクサ科)	マルバツユクサ	[外来7]	
144		ツユクサ	[史前帰化]	
145		イボクサ	[史前帰化]	
146		ヤブミョウガ		
147		ノハカタカラクサ	[外来4重点]	
148		ムラサキツユクサ	[栽培]	
149	(ミズアオイ科)	ホテイアオイ	[外来4重点]	
150		コナギ	[史前帰化]	
151	(ショウガ科)	ミョウガ	[逸出]	
152		ショウガ		
153	(ガマ科)	ヒメガマ		
154		ガマ		
155		コガマ		
156	(イグサ科)	イグサ	[史前帰化]	
157		ホソイ		
158		クサイ	[史前帰化]	
159		スズメノヤリ		
160	(カヤツリグサ科)	シロイトスゲ		
161		シラスゲ		
162		エナシヒゴクサ		
163		メアオスゲ		
164		ヒメカンスゲ		
165		オニスゲ		
166		アゼナルコ		
167		マスクサ		
168		ホンバヒカゲスゲ		
169		ヒゴクサ		
170		テキリスゲ	[在来固有]	
171		ヒカゲスゲ		
172		ナキリスゲ		
173		アオスゲ	[史前帰化]	
174		ヤガミスゲ		

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
175	(カヤツリグサ科)	ノゲヌカスゲ		
176		ミコシガヤ		
177		ヤブスゲ		
178		アゼスゲ		
179		ヤワラスゲ		
180		モエギスゲ		
181		シュロガヤツリ	[外来4重点]	
182		ヒメクグ	[史前帰化]	
183		タマガヤツリ	[史前帰化]	
184		ホソミキンガヤツリ	[外来7]	
185		メリケンガヤツリ	[外来4重点]	
186		ショクヨウガヤツリ	[外来7]	
187		アゼガヤツリ		
188		ヌマガヤツリ		
189		コゴメガヤツリ	[史前帰化]	
190		カヤツリグサ	[史前帰化]	
191		アオガヤツリ		
192		キンガヤツリ	[外来7]	
193		シロガヤツリ	[埼玉絶 II・VU]	
194		ハマスゲ	[史前帰化]	
195		ミスガヤツリ	[史前帰化]	
196		テンツキ	[史前帰化]	
197		ホタルイ		
198		イヌホタルイ		
199		ヒメホタルイ	[埼玉絶 II・VU]	
200		フトイ		
201		サンカクイ		
202	(イネ科)	コヌカグサ	[外来6産管]	
203		スズメノテッポウ	[史前帰化]	
204		メリケンカルカヤ	[外来5他]	
205		コブナグサ		
206		カラスムギ	[史前帰化]	
207		コバンソウ	[外来7]	
208		ヒメコバンソウ	[外来7]	
209		イヌムギ	[外来7]	
210		スズメノチャヒキ	[史前帰化]	
211		キツネガヤ		
212		カモガヤ	[外来6産管]	
213		ノガリヤス		
214		メヒシバ	[史前帰化]	
215		アゼガヤツリ		
216		アブラススキ		
217		ケイヌビエ		
218		イヌビエ	[史前帰化]	
219		ヒエ	[栽培]	
220		タイヌビエ		
221		オヒシバ	[史前帰化]	
222		アオカモジグサ		
223		カモジグサ	[史前帰化]	
224		シナダレスズメガヤ	[外来4重点]	
225		カゼクサ	[史前帰化]	
226		ニワホコリ	[史前帰化]	
227		トボンガラ		
228		チガヤ	[史前帰化]	
229		チゴザサ		
230		ササガヤ		
231		ネズミムギ	[外来6産管]	
232		ホソムギ	[外来6産管]	
233		ササクサ		
234		コメガヤ		

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
235	(イネ科)	アシボソ		
236		オギ		
237		ススキ		
238		ケチヂミザサ		
239		コチヂミザサ		
240		ヌカキビ	[史前帰化]	
241		シマスズメノヒエ	[外来5他]	
242		アメリカスズメノヒエ	[外来6産管]	
243		スズメノヒエ		
244		チカラシバ	[史前帰化]	
245		クサヨシ		
246		ヨシ		
247		モウソウチク	[外来6産管]	
248		マダケ	[外来6産管]	
249		アズマネザサ	[在来固有]	
250		アオスズメノカタビラ	[外来7]	
251		ミゾイチゴツナギ		
252		スズメノカタビラ	[史前帰化]	
253		イチゴツナギ		
254		オオスズメノカタビラ	[外来7]	
255		ヒエガエリ		
256		クマザサ	[外来固有][逸出]	
257		ムラサキエノコログサ		
258		アキノエノコログサ		
259		キンエノコロ	[史前帰化]	
260		エノコログサ	[史前帰化]	
261		ムラサキエノコログサ		
262		オカメザサ	[逸出]	
263		セイバンモロコシ	[外来5他]	
264		ネズミノオ	[史前帰化]	
265		カニツリグサ		
266		ナギナタガヤ	[外来6産管]	
267		シバ		
268		コウライシバ		
	●真正双子葉類			
269	(ケシ科)	クサノオウ		
270		ジロポウエンゴサク	[県追加調査]	
271		ムラサキケマン		
272		ヤマエンゴサク		
273		タケニグサ		
274		ナガミヒナゲシ	[外来7]	
275	(アケビ科)	アケビ		
276		ミツバアケビ		
277	(ツヅラフジ科)	アオツヅラフジ		
278		ツヅラフジ	[埼絶危II・VU]	
279	(メギ科)	ヒイラギナンテン	[外来5他]	
280		ナンテン	[植栽]	
281	(キンボウゲ科)	アズマイチゲ	[埼準絶・NT]	
282		コボタンヅル	[在来固有]	
283		センニンソウ		
284		セリバヒエンソウ	[外来7]	
285		ケキツネノボタン		
286		ウマノアシガタ		
287		タガラシ	[史前帰化]	
288		キツネノボタン		
289		ヒメウズ	[埼絶危II・VU]	
290		カラマツソウ	[埼絶危I B・EN][在来固有]	
291		アキカラマツ		
292		ノカラマツ	[埼絶危II・VU]	[全絶危II・VU]

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
293	(フウ科)	フウ	[植栽]	
294		モミジバフウ	[植栽]	
295	(カツラ科)	カツラ		
296	(ユズリハ科)	ユズリハ	[植栽]	
297	(ベンケイソウ科)	ヨーロッパタイトゴメ	[外来7]	
298		コモチマンネングサ	[史前帰化]	
299		メキシコマンネングサ	[外来7]	
300		ウンゼンマンネングサ		[全絶危II・VU]
301		ツルマンネングサ	[外来7]	
302	(タコノアシ科)	タコノアシ	[埼絶危II・VU]	[全準絶・NT]
303	(アリノトウグサ科)	オオフサモ	[外来1特緊]	
304	(ブドウ科)	ノブドウ		
305		ヤブカラシ		
306		ツタ		
307		ヤマブドウ		
308		エビヅル		
309	(マメ科)	フサアカシア	[植栽]	
310		クサネム	[史前帰化]	
311		ネムノキ		
312		ヤブマメ		
313		ナンキンマメ		
314		ハナズオウ	[植栽]	
315		アレチヌスビトハギ	[外来5他]	
316		ノササゲ		
317		ノアズキ	[県追加調査]	
318		アメリカデイゴ	[植栽]	
319		ツルマメ		
320		フジカンゾウ		
321		ヌスビトハギ		
322		コマツナギ		
323		マルバヤハズソウ		
324		ヤハズソウ		
325		ヤマハギ		
326		メドハギ	[史前帰化]	
327		マルバハギ		
328		ネコハギ		
329		コメツブウマゴヤシ	[外来7]	
330		クズ		
331		ハリエンジュ	[外来6産管]	
332		コメツブツメクサ	[外来7]	
333		ムラサキツメクサ	[外来7]	
334		シロツメクサ	[外来7]	
335		カラスノエンドウ		
336		クサフジ		
337		スズメノエンドウ		
338		カスマグサ		
339		ナンテンハギ		
340		ナヨクサフジ	[外来6産管]	
341		ヤブツルアズキ		
342		フジカンゾウ	[在来固有]	
343	(グミ科)	ナツグミ	[在来固有]	
344	(クロウメモドキ科)	ケンボナン		
345		ナツメ		
346	(ニレ科)	アキニレ	[植栽]	
347		ケヤキ		
348	(アサ科)	ムクノキ		
349		エノキ		
350		カナムグラ		
351	(クワ科)	ヒメコウゾ		
352		カジノキ	[逸出]	
353		コウゾ	[逸出]	

4	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
354		クワクサ		
355		マグワ	[逸出]	
356		ヤマグワ		
357	(イラクサ科)	カタバヤブマオ		
358		クサコアカソ		
359		ヤブマオ	[在来固有]	
360		アオカラムシ		
361		カラムシ		
362		メヤブマオ		
363		アオミズ		
364		イラクサ		
365	(バラ科)	キンミズヒキ		
366		ハナモモ		
367		カワゾザクラ		
368		ベニシダレ	[シダレザクラ品種]	
369		カンヒザクラ	[植栽]	
370		イトザクラ		
371		エドヒガン	[県追加調査][植栽]	
372		ヤマザクラ	[在来固有]	
373		ジュウガツザクラ		
374		ソメイヨシノ	[外来雑種][植栽]	
375		クサボケ	[在来固有]	
376		ボケ	[植栽]	
377		ビワ	[植栽]	
378		ヤマブキ		
379		コゴメウツギ		
380		イヌザクラ		
381		ウワミズザクラ	[在来固有]	
382		カナメモチ	[植栽]	
383		オヘビイチゴ		
384		キジムシロ		
385		ミツバツチグリ		
386		ヘビイチゴ		
387		コバナキジムシロ	[外来7]	
388		ヤブヘビイチゴ		
389		カマツカ		
390		ウメ	[植栽]	
391		トキワサンザシ	[外来5他]	
392		シャリンバイ	[植栽]	
393		ノイバラ		
394		クサイチゴ		
395		ニガイチゴ		
396		ナワシロイチゴ		
397		ワレモコウ		
398		ナガボノワレモコウ	[県追加調査]	
399		コデマリ	[植栽]	
400		シモツケ	[植栽]	
401		シジミバナ		
402		ユキヤナギ	[外来7]	
403	(ブナ科)	クリ		
404		スダジイ		
405		マテバシイ	[外来固有][植栽]	
406		アカガシ	[埼準絶・NT]	
407		クヌギ		
408		カシワ	[植栽]	
409		アラカシ		
410		シラカシ		
411		コナラ		
412		アベマキ		
413	(ヤマモモ科)	ヤマモモ	[植栽]	

4	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
414	(クルミ科)	オニグルミ		
415		サワグルミ	[植栽]	
416	(カバノキ科)	ヤマハンノキ		
417		ハンノキ		
418		クマンデ	[在来固有]	
419		アカシデ		
420		イヌシデ		
421	(ウリ科)	アマチャヅル		
422		アレチウリ	[外来1特緊]	
423		カラスウリ		
424		キカラスウリ	[在来固有]	
425		スズメウリ		
426	(シュウカイドウ科)	シュウカイドウ	[外来7]	
427	(ニシキギ科)	ツルウメモドキ		
428		ニシキギ		
429		コマユミ		
430		ツルマサキ		
431		マサキ	[植栽]	
432		マユミ		
433	(カタバミ科)	イモカタバミ	[外来7]	
434		ベニカタバミ	[外来7]	
435		カタバミ	[史前帰化]	
436		アカカタバミ		
437		ムラサキカタバミ	[外来7]	
438		オッタチカタバミ	[外来7]	
439		オオヤマカタバミ	[埼準絶 I B・EN] [全絶危 II・VU]	
440	(ヒルギ科)	メヒルギ		
441	(トウダイグサ科)	エノキグサ	[史前帰化]	
442		ノウルシ	[埼準絶 II・VU][在来固有]	[全準絶・NT]
443		トウダイグサ		
444		ニシキソウ	[史前帰化]	
445		コニシキソウ	[外来7]	
446		オオニシキソウ	[外来7]	
447		アレチニシキソウ	[外来7]	
448		アカメガシワ		
449		ナンキンハゼ	[植栽]	
450	(コミカンソウ科)	コミカンソウ	[史前帰化]	
451		ナガエコミカンソウ	[外来7]	
452	(ヤナギ科)	イイギリ	[植栽]	
453		パッコヤナギ		
454		マルバヤナギ		
455		ジャヤナギ		
456		カワヤナギ		
457		タチヤナギ		
458	(スマレ科)	アリアケスマレ		
459		ヒゴスマレ	[埼準絶・NT][在来固有]	
460		タチツボスマレ		
461		アオイスマレ		
462		ヒメスマレ		
463		コスミレ		
464		マルバスマレ		
465		スマレ		
466		ニオイスマレ	[外来7]	
467		アカネスミレ		
468		アメリカスマレサイシン	[外来7]	
469		ツボスマレ		
470		ノジスマレ		
471	(オトギリソウ科)	オトギリソウ		
472		ビヨウヤナギ	[植栽]	
473	(フウロソウ科)	アメリカフウロ	[外来7]	
474	(ミソハギ科)	ホソバヒメミソハギ	[外来7]	

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
476	(アカバナ科)	ヒレタゴボウ	[外来7]	
477		チョウジタデ	[史前帰化]	
478		メマツヨイグサ	[外来7]	
479		オオマツヨイグサ	[外来7]	
480		オオバナコマツヨイグサ		
481		コマツヨイグサ	[外来4重点]	
482		ユウゲショウ	[外来7]	
483		ヒルガキツキミソウ	[外来7]	
484		マツヨイグサ	[外来7]	
485	(ミツバウツギ科)	ミツバウツギ		
486		ゴズイ		
487	(ウルシ科)	ヌルデ		
488		ヤマハゼ		
489		ヤマウルシ		
490	(ムクロジ科)	イロハカエデ		
491		トウカエデ	[植栽]	
492		トチノキ	[在来固有]	
493		オオモクゲンジ		
494		モクゲンジ		
495		ムクロジ		
496	(ミカン科)	フクレミカン	[タチバナ品種?]	
497		サンショウ		
498	(ニガキ科)	ニワウルシ	[外来4重点]	
499		ニガキ		
500	(センダン科)	センダン	[植栽]	
501	(アオイ科)	イチビ	[外来7]	
502		タチアオイ	[外来7]	
503		カラスノゴマ		
504		フヨウ	[植栽]	
505		ゼニアオイ	[外来7]	
506		キンゴジカ	[外来7]	
507		アメリカキンゴジカ	[外来7]	
508		シナノキ	[植栽]	
509		ボダイジュ		
510	(アブラナ科)	ヤマハタザオ		
511		セイヨウカラシナ	[外来5他]	
512		セイヨウアブラナ	[外来7]	
513		アブラナ	[逸出]	
514		ナズナ	[史前帰化]	
515		ミチタネツケバナ	[外来7]	
516		タネツケバナ	[史前帰化]	
517		イヌナズナ		
518		マメグンバイナズナ	[外来7]	
519		オランダガラシ	[外来4重点]	
520		ショカツサイ	[外来7]	
521		コイヌガラシ	[埼準絶・NT]	[全準絶・NT]
522		イヌガラシ		
523		スカシタゴボウ		
524		カキネガラシ	[外来7]	
525		グンバイナズナ	[外来7]	
526	(オオバヤドリギ科)	マツグミ	[埼準絶 I B・EN]	
527	(タデ科)	ジャクチリソバ	[外来5他]	
528		イタドリ		
529		アキノウナギツカミ	[史前帰化]	
530		ママコノシリヌグイ		
531		ヒメツルソバ	[外来5他]	
532		ミズヒキ		
533		ギンミズヒキ		
534		ヤナギタデ		
535		オオイヌタデ	[史前帰化]	
536		イヌタデ	[史前帰化]	

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
537	(タデ科)	シンミズヒキ		
538		サクラタデ		
539		オオケタデ	[外来7]	
540		イシミカワ	[史前帰化]	
541		ハナタデ		
542		ポントクタデ	[史前帰化]	
543		ミゾソバ		
544		ニオイタデ	[外来7]	
545		ミチヤナギ	[史前帰化]	
546		ハイミチヤナギ	[外来7]	
547		スイバ		
548		アレチギンギン	[外来7]	
549		ナガバギンギン	[外来5他]	
550		ギンギン		
551		エゾノギンギン	[外来5他]	
552	(モウセンゴケ科)	ハエジゴク	[栽培]	
553	(ナデシコ科)	ノミノツツリ	[史前帰化]	
554		ムシトリナデシコ	[外来5他]	
555		ミミナグサ	[史前帰化]	
556		オランダミミナグサ	[外来7]	
557		ツメクサ		
558		ウシハコベ	[史前帰化]	
559		コハコベ	[外来7]	
560		ミドリハコベ		
561		イヌコハコベ	[外来7]	
562		ノミノフスマ		
563	(ヒユ科)	ヒンタイノコヅチ		
564		イノコヅチ		
565		ヤナギイノコヅチ		
566		ナガエツルノゲイトウ	[外来1特繁]	
567		イヌビユ	[史前帰化]	
568		ホソアオゲイトウ	[外来7]	
569		アオゲイトウ	[外来7]	
570		ホナガイヌビユ	[外来7]	
571		シロザ		
572		アカザ	[外来7]	
573		コアカザ	[史前帰化][外来7]	
574		アリタソウ	[外来7]	
575		ゴウシュウアリタソウ	[外来7]	
576	(ヤマゴボウ科)	ヨウシュヤマゴボウ	[外来7]	
577	(オシロイバナ科)	オシロイバナ	[外来7]	
578	(ザクロソウ科)	ザクロソウ	[史前帰化]	
579	(ツルムラサキ科)	ツルムラサキ	[外来5他]	
580	(ハゼラン科)	ハゼラン	[外来7]	
581	(スベリヒユ科)	スベリヒユ	[史前帰化]	
582	(ミズキ科)	ハナミズキ	[植栽]	
583		ミズキ		
584		ヤマボウシ		
585		サンシュユ	[植栽]	
586		ハンカチノキ		
587	(アジサイ科)	ウツギ	[在来固有]	
588		セイヨウアジサイ	[植栽]	
589		コアジサイ	[在来固有]	
590		イワガラミ		
591		アジサイ	[植栽]	
592		ガクアジサイ	[外来固有][植栽]	
593		バイカウツギ	[在来固有]	
594	(サカキ科)	サカキ		
595		ヒサカキ		
596		モッコク	[植栽]	
597	(カキノキ科)	カキノキ	[逸出]	

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
598	(サクランウ科)	マンリョウ	[逸出]	
599		ヤブコウジ		
600		オカトラノオ		
601		ヌマトラノオ	[埼準絶・NT]	
602		コナスビ		
603	(ツバキ科)	ヤブツバキ		
604		チャノキ	[逸出]	
605		ヒメシャラ	[外来固有][植栽]	
606		ナツツバキ	[植栽]	
607	(ハイノキ科)	サワフタギ		
608	(エゴノキ科)	エゴノキ		
609		ハクウンボク	[植栽]	
610	(マタタビ科)	キウイフルーツ	[外来6産管]	
611	(リョウブ科)	リョウブ		
612	(ツツジ科)	ウメガサソウ	[埼絶危Ⅱ・VU]	
613		ドウダンツツジ	[植栽]	
614		シャクジョウソウ	[埼準絶・NT]	
615		ネジキ		
616		ギンリョウソウ		
617		イチヤクソウ		
618		アズマシャクナゲ	[埼準絶・NT][在来固有]	
619		ヤマツツジ	[在来固有]	
620		ヒラドツツジ	[外来雑種][植栽]	
621		ナツハゼ		
622	(アオキ科)	アオキ		
623	(アカネ科)	シラホシムグラ	[外来7]	
624		ヒメヨツバムグラ		
625		ヤエムグラ	[史前帰化]	
626		ヨツバムグラ		
627		クちなシ	[植栽]	
628		コクちなシ		
629		ヘクソカズラ		
630		アカネ		
631	(リンドウ科)	リンドウ	[在来固有]	
632		フデリンドウ		
633		センブリ	[埼絶危Ⅱ・VU]	
634	(キョウチクトウ科)	チョウジソウ	[埼絶危ⅠB・EN]	[全準絶・NT]
635		ガガイモ		
636		キョウチクトウ	[植栽]	
637		テイカカズラ		
638		ツルニチニチソウ	[外来4重点]	
639	(ヒルガオ科)	コヒルガオ		
640		ヒルガオ		
641		マルバルコウ	[外来4重点]	
642		アメリカアサガオ	[外来4重点]	
643		マメアサガオ	[外来4重点]	
644		アサガオ	[外来4重点]	
645		マルバアサガオ	[外来4重点]	
646		ホシアサガオ	[外来5他]	
647	(ナス科)	ホオズキ	[外来7]	
648		クコ		
649		ワルナスビ	[外来7]	
650		アメリカイヌホオズキ	[外来7]	
651		ヒョドリジョウゴ		
652		イヌホオズキ	[史前帰化]	
653		タマサンゴ	[外来7]	
654	(ムラサキ科)	ハナイバナ		
655		ホタルカズラ	[埼絶危Ⅱ・VU]	
656		キュウリグサ	[史前帰化]	
657	(モクセイ科)	レンギョウ	[植栽]	
658		マルバアオダモ		

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
659	(モクセイ科)	ネズミモチ		
660		トウネズミモチ	[外来4重点]	
661		イボタノキ		
662		キンモクセイ	[植栽]	
663		ヒイラギ	[植栽]	
664		ムラサキハシドイ	[植栽]	
665	(オオバコ科)	ツタバウンラン	[外来7]	
666		マツバウンラン	[外来7]	
667		オオバコ	[史前帰化]	
668		ヘラオオバコ	[外来7]	
669		ツボミオオバコ	[外来7]	
670		ムシクサ	[史前帰化]	
671		オオカワヂシャ	[外来1特繁]	
672		タチイヌノフグリ	[外来7]	
673		フラサバソウ	[外来7]	
674		オオイヌノフグリ	[外来7]	
675		イヌノフグリ	[埼準絶・NT]	[全絶危Ⅱ・VU]
676		カワヂシャ	[埼絶危Ⅱ・VU]	[全準絶・NT]
677	(ゴマノハグサ科)	キタミソウ	[埼絶危ⅠB・EN]	[全絶危Ⅱ・VU]
678	(アゼナ科)	タケトアゼナ	[外来7]	
679		アメリカアゼナ	[外来7]	
680		アゼナ	[史前帰化]	
681		ウリクサ	[史前帰化]	
682	(シソ科)	キランソウ		
683		ジュウニヒトエ		
684		ムラサキシキブ		
685		クサギ		
686		クルマバナ		
687		トウバナ		
688		カキドオシ		
689		ヤマハッカ		
690		オドリコソウ		
691		ホトケノザ	[史前帰化]	
692		ヒメオドリコソウ	[外来7]	
693		メハジキ		
694		ハッカ		
695		ヒメジソ		
696		イヌコウジュ		
697		シソ	[栽培]	
698		アオジソ		
699		エゴマ	[逸出]	
700		アキノタムラソウ		
701		ナツノタムラソウ	[在来固有]	
702		イヌゴマ		
703		ニガクサ		
704	(サギゴケ科)	ムラサキサギゴケ		
705		ヤマサギゴケ		
706		トキワハゼ		
707	(ハエドクソウ科)	ハエドクソウ		
708		ナガバハエドクソウ		
709	(キリ科)	キリ	[植栽]	
710	(ハマウツボ科)	クちなシグサ	[埼準絶・NT]	
711		ヤセウツボ	[外来7]	
712	(キツネノマゴ科)	キツネノマゴ		
713		ハグロソウ	[埼準絶・NT]	
714	(ノウゼンカズラ科)	ノウゼンカズラ	[植栽]	
715	(クマツヅラ科)	イワダレソウ		
716		ヒメイワダレソウ	[外来4重点]	
717		ヤナギハナガサ	[外来5他]	

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
718	(モチノキ科)	イヌツゲ		
719		モチノキ	[植栽]	
720		タラヨウ	[植栽]	
721		アオハダ		
722		ウメモドキ		
723	(キキョウ科)	ツリガネニンジン		
724		ヤマホタルブクロ	[在来固有]	
725		ホタルブクロ		
726		ミゾカクシ		
727		ヒナキキョウソウ	[外来7]	
728		キキョウソウ	[外来7]	
729	(キク科)	ブタクサ	[外来7]	
730		オオブタクサ	[外来4重点]	
731		オニオトコヨモギ	[在来固有]	[全絶危Ⅱ・VU]
732		ヨモギ	[史前帰化]	
733		ユウガギク	[在来固有]	
734		ノコンギク	[在来固有]	
735		シラヤマギク		
736		ヤマシロギク		
737		シオン		[全絶危Ⅱ・VU]
738		ヨメナ	[在来固有]	
739		カントウヨメナ	[在来固有]	
740		オケラ		
741		コバノセンダングサ	[外来7]	
742		アリカセンダングサ	[外来5他]	
743		コシロセンダングサ	[外来7]	
744		コセンダングサ	[外来7]	
745		ヤブタバコ		
746		ガンクビソウ		
747		サジガンクビソウ		
748		トキンソウ	[史前帰化]	
749		ノアザミ		
750		オニアザミ	[在来固有]	
751		ノハラアザミ	[在来固有]	
752		アメリカオニアザミ	[外来5他]	
753		オオキンケイギク	[外来1特緊]	
754		ハルシャギク	[外来5他]	
755		コスモス	[外来7]	
756		キバナコスモス	[外来7]	
757		ベニバナポロギク	[外来7]	
758		ヤクシソウ		
759		アメリカタカサブロウ	[外来7]	
760		タカサブロウ	[史前帰化]	
761		ウスベニニガナ		
762		ダンドポロギク	[外来7]	
763		ムカシヨモギ		
764		ヒメジョオン	[外来5他]	
765		アレチノギク	[外来7]	
766		ヒメムカシヨモギ	[外来7]	
767		ペラペラヨメナ	[外来5他]	
768		ハルジオン	[外来7]	
769		オオアザミ	[外来7]	
770		ヒヨドリバナ		
771		ツワブキ	[栽培]	
772		ハキダメギク	[外来7]	
773		ウラジロチチコグサ	[外来7]	
774		チチコグサモドキ	[外来7]	
775		タチチチコグサ	[外来7]	

	科名	和名	埼玉2011・外来等	環境省2017
776	(キク科)	キクイモ	[外来7]	
777		キツネアザミ	[史前帰化]	
778		ブタナ	[外来7]	
779		ニガナ		
780		オオヂシバリ		
781		ヂシバリ	[史前帰化]	
782		ノニガナ	[埼玉絶・NT][史前帰化]	
783		アキノノゲシ	[史前帰化]	
784		コオニタピラコ		
785		ヤブタピラコ		
786		センボンヤリ		
787		コウヤボウキ	[在来固有]	
788		フキ		
789		コウゾリナ		
790		ハハコグサ	[史前帰化]	
791		ミツバオオハンゴンソウ	[外来7]	
792		ノボロギク	[外来7]	
793		セイタカアワダチソウ	[外来4重点]	
794		アキノキリンソウ		
795		オニノゲシ	[外来7]	
796		ノゲシ	[史前帰化]	
797		ヒロハハウキギク	[外来7]	
798		ハウキギク	[外来7]	
799		ヤブレガサ		
800		ニセカントウタンポポ	[外来雑種][外来7]	
801		シロバナタンポポ	[在来固有]	
802		セイヨウタンポポ	[外来4重点]	
803		アイノコセイヨウタンポポ	[外来雑種][外来7]	
804		カントウタンポポ	[在来固有]	
806		キバナムギナデシコ	[外来7]	
807		イガオナモミ	[外来7]	
808		オオオナモミ	[外来5他]	
809		オナモミ	[埼玉絶・VU][史前帰化]	[全絶危Ⅱ・VU]
810		オニタピラコ		
811	(トベラ科)	トベラ	[逸出]	
812	(ウコギ科)	ウド		
813		タラノキ		
814		カクレミノ	[植栽]	
815		ヤマウコギ	[在来固有]	
816		ヤツデ	[植栽]	
817		キツタ		
818		オオチドメ		
819		チドメグサ	[史前帰化]	
820		ウチワゼニクサ	[外来4重点]	
821	(切科)	ハナウド		
822		セリ	[在来固有]	
823		ヤブニンジン		
824		ヤブジラミ		
825		オヤブジラミ		
826	(ガマズミ科)	ニワトコ		
827		ガマズミ		
828		サコジュ	[植栽]	
829		ゴマギ	[埼玉絶・NT]	
830	(スイカズラ科)	アベリア		
831		ウグイスカグラ	[在来固有]	
832		スイカズラ		
833		オトコエシ		
834		ノヂシャ	[外来7]	

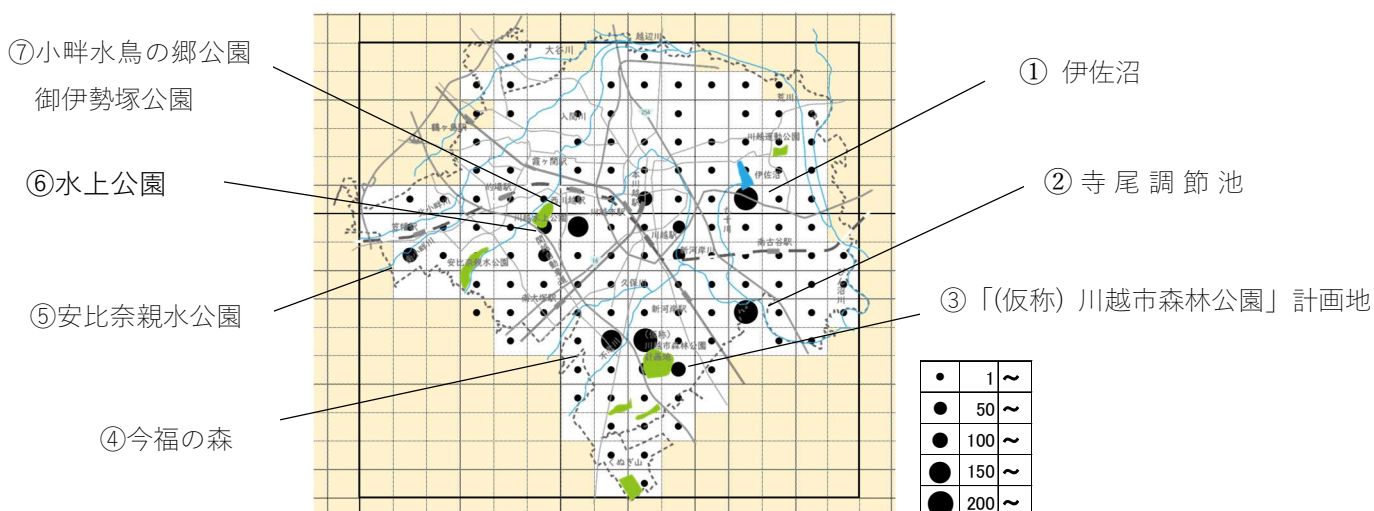
2. 鳥類

1. はじめに

川越市には山・丘陵はありませんが、緑地として循環型農業用雑木林が点在、川越の名前の由来のとおり、荒川、入間川や新河岸川などの河川があり、野鳥にとっての自然環境が揃っています。生き物調査の結果、図のように市内全域を行うことができました。報告件数は3920件、種類数は126種になります。10年ほど前は80種ほどでした。そのうち、絶滅危惧種としての希少種は、37種あります。一覧表はp22に掲載してありますのでご覧ください。下図の分布図のように市内の全域で野鳥が観察され、特に多くの報告があったメッシュは大きな●になっています。

山野の鳥は、(仮称)川越市森林公園計画地周辺や各地公園で観察されました。水辺の鳥は山野の鳥を含めて、河川や伊佐沼や新河岸川沿いの寺尾調節池付近など湿地で観察されました。繁殖地と越冬地が分かれている野鳥は、その両方の自然環境が保全されていなければ絶滅の危惧が増加します。川越の雑木林は中継地点および繁殖地、越冬地としての大切な役割を持っており、野鳥の保護を推進するためには、積極的な保全活動が求められています。「Today Birds, Tomorrow Men」の言葉をかみしめ、「明日を予測して」身近な自然の大切さを感じてください

野鳥の市内分布図



2. メッシュコード別の野鳥の種数

山野の鳥と水辺の鳥に分けて観察場所ごとの種類をデータ整理すると、右表のようになります。水辺の鳥が多い場所は伊佐沼が54種と最も多く、山野の鳥は、森林公園計画地は50種で最も多いです。場所は上の図を参考にして下さい。近くに水辺のないところでも雑木林脇の耕作地でコチドリがシーズン毎にやってきて繁殖している。ほかにカルガモなどもやって来る。市街地でも社寺林や近くを川があるため右表の結果となりました。写真はコチドリ

主な観察場所	メッシュコード	野鳥の種数	
		山野の鳥	水辺の鳥
森林公園計画地	5339-6349,6358	50	4
今福の林	5339-6357	35	1
御伊勢塚公園・小畔水鳥の郷公園	5339-6381	34	14
水上公園	5339-6396	32	11
寺尾調節池付近	5339-6461	29	25
池辺公園	5339-6384,6385	19	9
仙波史跡公園	5339-6389	18	11
喜多院周辺	5339-7309	17	4
連馨寺周辺	5339-7308	15	2
川越一中付近	5339-6399	18	4
安比奈公園	5339-6373,6383	30	4
伊佐沼	5339-7401,7411	3	54

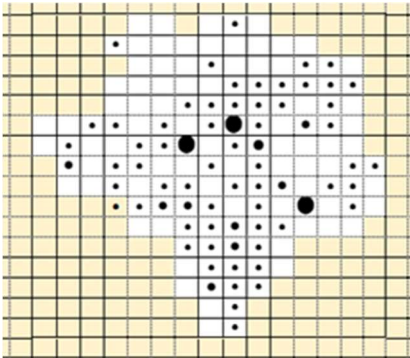


3. 報告件数の多かった野鳥

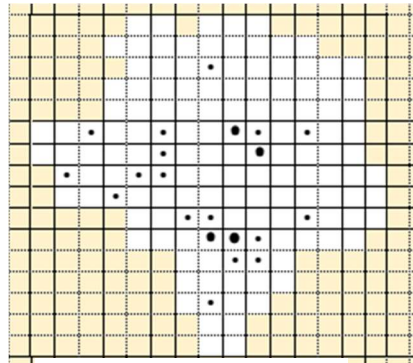
右の表は報告件数のランキングです。ランキング 12 位までは、報告数も 100 件以上あり市内各所で見られる野鳥です。水色網掛けは生き物調査指標種ですが、上位を占めています。ナンバー 1 はスズメでは市街地、河川、公園など全般にいるので報告数 267 となっています。

指標種以外のムクドリ、ハクセキレイは市街地や農地などで見られます。アオサギ、ダイサギは河川の岸辺にたたずんでいるのに出会います。22 位のヒタキ科ジョウビタキは市街地でも見受けられるようになりました。指標種でもある外来種のガビチョウは 49 件の報告数でした。

順位	名 前	報告件数
1	スズメ	267
2	ヒヨドリ	209
3	シジュウカラ	208
4	キジバト	191
5	ツバメ	172
6	モズ	167
7	カルガモ	136
8	ムクドリ	131
9	ツグミ	128
10	コゲラ	121
11	ハクセキレイ	118
12	カワラヒワ	103
13	カワセミ	87
14	アオサギ	79
15	ダイサギ	73
16	オナガ	72
17	ヒバリ	71
18	カイツブリ	67
19	メジロ	65
20	コサギ	64
21	コガモ	62
22	ジョウビタキ	57



スズメの分布



ジョウビタキの分布



ムクドリ



ヒヨドリの群れ



ハクセキレイ



ダイサギ



アオサギ

4. 報告件数の少なかった野鳥

ここにあげた種はカメラマンが追うような珍鳥ではありませんが、出会う機会は少ないです。



水田跡で群れるタゲリ

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	観察場所
タヒバリ	10	2	11月～4月	伊佐沼
センダイムシクイ	4	2	4月～5月	水上公園
アトリ	3	2	1月～4月	川森、仙波史跡公園
マヒワ	3	3	2月～4月	福原地区
タゲリ	1	1	10月～4月	伊佐沼付近
クイナ	2	2	12月～3月	新河岸川・川崎橋付近
タシギ	3	1	1月～2月	伊佐沼



クイナ 寺尾調節池



タシギ 伊佐沼



センダイムシクイ 水上公園



アトリ 仙波河岸史跡公園



5. 伊佐沼など水辺の鳥たち

水鳥の報告は右表のようになり、ナンバー1はカルガモで分布は下図です。伊佐沼、水上公園など水場のある場所や河川、田んぼなどでの報告が多くなっています。

伊佐沼は4月上旬になると沼に水が入り、春から夏にかけてオオヨシキリがさえざり、カイツブリがヨシ原の間を泳ぎ、コアジサシがダイビングして小魚をとり、沼の中島ではヨシゴイが忍者のごとく魚をねらい、古代蓮が咲く頃になると、バン及びカルガモ親子が、楽しそうに泳ぎ廻ります。

初秋になるとアオアシシギ、ツルシギなどの渡り鳥が体を休め、北風が吹き始める頃、北国から越冬のためコガモ、マガモなどがやって来ます。伊佐沼では、一年間に50~60種類の鳥が観察できます。

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期
カルガモ	136	39	通年
カワセミ	87	21	通年
カイツブリ	67	12	通年
オオヨシキリ	44	18	5月~7月
バン	26	5	5月~7月
セイタカシギ	19	2	11月~2月
アオアシシギ	14	1	10月~12月
ツルシギ	9	1	11月
コアジサシ	7	1	5月~7月
カンムリカイツブリ	7	3	11月
ヨシゴイ	4	1	7月~8月



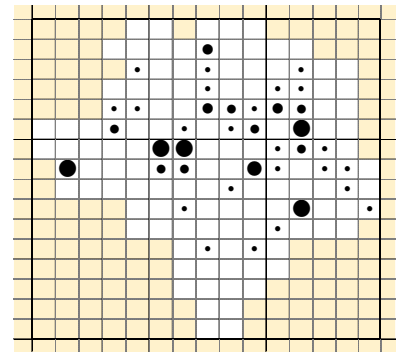
カワセミ



恥ずかしがり屋のバン



オオヨシキリ



カルガモの市内分布図



左：仲良しシギ セイタカシギ、ツルシギ、アオアシシギ

中：カンムリカイツブリ 右：小魚を狙っているコアジサシ

報告件数の少なかったカモ類

水辺には、珍しい野鳥がやって来るので目が離せない。ヒドリガモの群れと行動しているアメリカヒドリや、気品あるオナガガモなど季節によって遭遇することができる。但し、運が良ければ。

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	観察場所
オナガガモ	7	5	12月	伊佐沼
ミコアイサ	7	3	11月~3月	伊佐沼
アメリカヒドリ	5	2	3月	伊佐沼、寺尾調節池
ヨシガモ	4	3	12月~2月	寺尾調節池
キンクロハジロ	1	1	4月	伊佐沼



アメリカヒドリ



ミコアイサ



ヨシガモ



キンクロハジロ

6. 猛禽類

猛禽類は、生態系ピラミッドの上位に位置する種で、生息する地域が豊かな自然環境と生物多様性を形成していることを示す象徴的な動物です。繁殖時期は森で過ごし、森や河川、湿地や田畑で獲物を得ています。散策しているとそのような機会に出会うチャンスがあります。

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	観察場所
トビ	27	13	通年	伊佐沼付近
オオタカ	20	9	通年	寺尾調節池付近
チョウゲンボウ	17	10	通年	寺尾調節池付近
ノスリ	7	5	通年	寺尾調節池付近
ツミ	5	3	4月～5月	福原地区
ミサゴ	4	1	通年	伊佐沼付近



ノスリ 採餌後一休み



ツミ
ハトよりも小さなタカ



ミサゴ 伊佐沼上空



オオタカ 若鳥のよう

7. キツツキ類

森でコナラなどの枯れ枝や幹を「ドラミング」※する音が聞こえたら探してください。コゲラやアオゲラに出会うことができます。運が良ければ、アカゲラに遭遇できます。アリスイという、長い舌をのぼしアリを好んで食べるキツツキもいます。 ※ ドラミングとは、嘴でものをたたいて出す連打音。コミュニケーション手段としている。

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	主な観察場所
コゲラ	121	25	通年	森林公園計画地
アオゲラ	28	13	通年	森林公園計画地
アカゲラ	6	3	10月～4月	森林公園計画地
アリスイ	1	1	1月	森林公園計画地



コゲラ 背中の中の縞模様が特徴



アカゲラ 頭部と腹に赤い模様



アオゲラ 29 cmの大きさ



アリスイ 珍しい

8. ツグミ類

冬鳥のツグミ類は林床に目を向けると発見することができます。遭遇する機会が多いのは、ツグミ、シロハラです。運が良ければアカハラに会えます。トラツグミはクズ掃き後に見かけられます。

名 前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	主な観察場所
ツグミ	128	40	10月～5月	森林公園計画地
シロハラ	34	8	10月～4月	森林公園計画地
イソヒヨドリ	12	3	4月～5月	市街地
アカハラ	5	4	1月～4月	森林公園計画地
トラツグミ	3	3	1月～3月	森林公園計画地



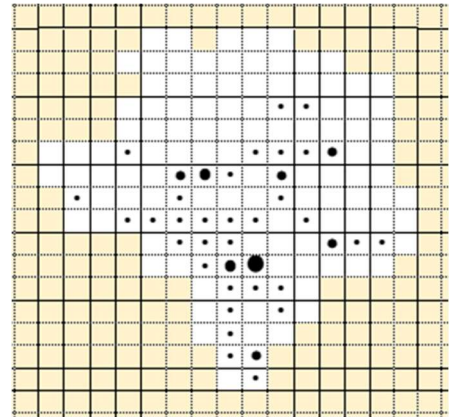
ツグミ 立ち止まって胸を張る



アカハラ



トラツグミ



ツグミの分布 草原など広い範囲にいる

イソヒヨドリ

川越では、他のツグミ類と違って春にやって来ます。通常、海沿いに生息するこの鳥、春から初夏にかけて高い建物のある市街地で子育てするのを見かけることがあります。雄雌とも大きな声でさえざります。



アンテナに



羽ばたく



屋上で一休み



海辺のイソヒヨドリ

9. モズやヒタキ類

クズ掃きしているとやって来る鳥もいます。ルリビタキは明るい林より暗い林を好み、クズ掃きをしているそばで虫を探しているのに会えます。春を過ぎると繁殖地である亜高山針葉樹林に移動します。

野鳥と人との距離は、モズは 25m、ジョウビタキは 10

m、ルリビタキは 5m ほどだそうです。この 3 種類の野鳥の強さはモズ > ジョウビタキ > ルリビタキだそうです。この他に、夏鳥のキビタキには綺麗な澄んだ鳴き声に聞き惚れてしまいます。

名前	報告件数	メッシュコード数	観察時期	主な観察場所
モズ	161	50	通年	
ジョウビタキ	57	21	10月~4月	森林公園計画地
キビタキ	28	10	4月~10月	森林公園計画地
ルリビタキ	10	2	10月~4月	森林公園計画地



ルリビタキ



ジョウビタキ ♀

下はジョウビタキ♂



キビタキ 最近は居付くものもいるらしい



モズ



10. 小さな可愛い野鳥たち

秋冬にシジュウカラ科のシジュウカラ、コガラ、ヤマガラとエナガ（エナガ科）、コゲラ（キツツキ科）など、複数の種が「混群」をつくることがあります。時には、後からメジロがやって来ることもあります。脚は丈夫かつ器用で、木の枝にぶら下がったり種子を脚で押さえつけたりすることができます。

名 前	報告件数	メッシュコード	観察時期	主な観察場所
シジュウカラ	208	44	通年	福原地区
メジロ	65	25	通年	福原地区
エナガ	49	19	通年	福原地区
ヤマガラ	35	9	通年	福原地区



シジュウカラ



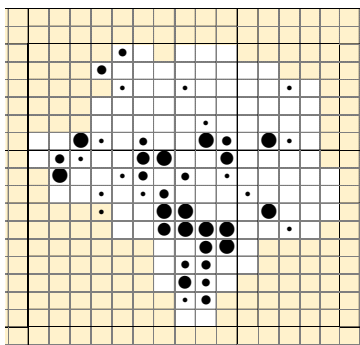
ヤマガラ



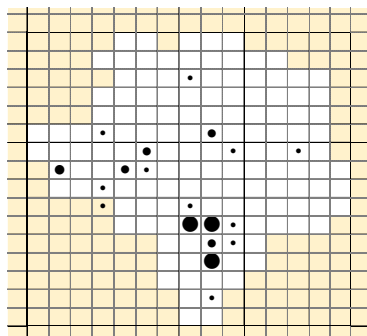
エナガ ウルトラ C



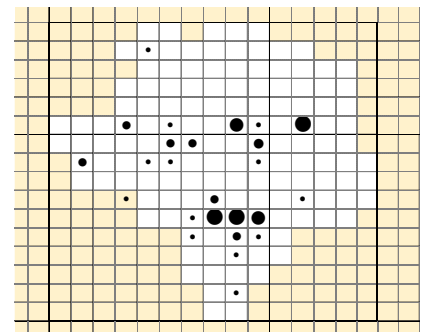
柿に夢中のメジロ



シジュウカラの分布 報告数も多く市街地などでもよく見かける



エナガの分布



メジロの分布

11. 野鳥の親子

キジの親子 寺尾調節池

バンの親子 伊佐沼



ゴイサギの親子 寺尾調節池

カルガモの親子 伊佐沼



12. 報告された野鳥一覧表

	山野の鳥・名前	科	メッシュコード ド個所数	報告件数	埼玉県レッ ドデータ
1	スズメ	スズメ	71	267	
2	ヒヨドリ	ヒヨドリ	49	209	
3	シジュウカラ	シジュウカラ	44	208	
4	キジバト	ハト	53	191	
5	ツバメ	ツバメ	62	172	
6	モズ	モズ	50	167	
7	ムクドリ	ムクドリ	48	131	
8	ツグミ	ヒタキ	40	128	
9	コゲラ	キツツキ	25	121	
10	カワラヒワ	アトリ	26	103	
11	オナガ	カラス	22	72	
12	ヒバリ	ヒバリ	31	71	
13	メジロ	メジロ	25	65	
14	ジョウビタキ	ヒタキ	21	57	
15	エナガ	エナガ	19	49	
16	ガビチョウ	チドリ	19	49	
17	キジ	キジ	17	39	
18	ハシブトガラス	カラス	22	35	
19	ハシボソガラス	カラス	23	35	
20	ヤマガラ	シジュウカラ	9	35	RT
21	ウグイス	ヒタキ	20	34	RT
22	シロハラ	ヒタキ	8	34	
23	アオゲラ	キツツキ	13	28	RT
24	キビタキ	ヒタキ	10	28	RT
25	トビ	タカ	13	27	
26	ホオジロ	ホオジロ	15	26	
27	シメ	アトリ	11	25	
28	アオジ	ホオジロ	10	21	DD
29	オオタカ	タカ	9	20	VU
30	コジュケイ	キジ	10	20	
31	チョウゲンボウ	ハヤブサ	10	17	NT2
32	カッコウ	カッコウ	6	16	NT2
33	セッカ	ヒタキ	9	16	
34	ビンズイ	セキレイ	7	15	
35	カシラダカ	ホオジロ	7	13	
36	イソヒヨドリ	ヒタキ	3	12	
37	カケス	カラス	8	10	
38	ルリビタキ	ヒタキ	2	10	RT
39	ホトトギス	カッコウ	8	9	
40	ノスリ	タカ	5	7	NT2
41	アカゲラ	キツツキ	3	6	
42	アカハラ	ヒタキ	4	5	NT2
43	イワツバメ	ツバメ	5	5	
44	ツミ	タカ	3	5	NT2
45	ドバト	ハト	3	5	
46	ワカケホンセイイ	インコ	3	5	
47	センダイムシクイ	ムシクイ	2	4	NT2
48	ミサゴ	ミサゴ	1	4	
49	アトリ	アトリ	2	3	
50	トラツグミ	ツグミ	3	3	NT2
51	ハヤブサ	ハヤブサ	3	3	
52	マヒワ	アトリ	3	3	
53	アオバズク	フクログモ	2	2	
54	チュウヒ	タカ	1	2	EN
55	ヒガラ	シジュウカラ	2	2	RT
56	アリスイ	キツツキ	1	1	NT2
57	イカル	アトリ	1	1	
58	オオジュリン	ホオジロ	1	1	
59	コムクドリ	ムクドリ	1	1	
60	サンコウチョウ	ヒタキ	1	1	
61	サンショウクイ	サンショウクイ	1	1	EN
62	ツツドリ	カッコウ	1	1	
63	ノビタキ	ヒタキ	1	1	
64	メボソムシクイ	ムシクイ	1	1	
65	コウライキジ	キジ	1	1	
			報告数	2659	

	水辺の鳥・名前	科	メッシュコード ド個所数	報告件数	埼玉県 レッドデー タ
1	カルガモ	カモ	39	136	
2	ハクセキレイ	セキレイ	39	118	
3	カワセミ	カワセミ	21	87	RT
4	アオサギ	サギ	26	79	
5	ダイサギ	サギ	25	73	
6	カイツブリ	カイツブリ	12	67	
7	コサギ	サギ	22	64	NT2
8	コガモ	カモ	10	62	
9	ヒドリガモ	カモ	12	57	
10	カワウ	ウ	14	49	
11	オオヨシキリ	ヨシキリ	18	44	NT2
12	コチドリ	チドリ	12	35	
13	オオバン	クイナ	9	32	NT1
14	マガモ	カモ	9	32	
15	バン	クイナ	5	26	NT2
16	キセキレイ	セキレイ	10	23	
17	イソシギ	シギ	5	21	VU
18	ハシビロガモ	カモ	3	20	
19	セイタカシギ	セイタカシギ	2	19	
20	セグロセキレイ	セキレイ	10	18	
21	アオアシシギ	シギ	1	14	
22	ゴイサギ	サギ	7	14	
23	ホシハジロ	カモ	3	13	
24	ユリカモメ	カモメ	4	11	
25	アマサギ	サギ	4	10	LP
26	イカルチドリ	チドリ	1	10	NT1
27	オカヨシガモ	カモ	1	10	
28	タヒバリ	セキレイ	2	10	
29	チュウサギ	サギ	3	9	VU
30	ツルシギ	シギ	1	9	
31	オオハシシギ	シギ	1	8	
32	オナガガモ	カモ	5	7	
33	カンムリカイツブリ	カイツブリ	3	7	VU
34	コアジサシ	カモメ	1	7	CR
35	ハマシギ	シギ	1	7	
36	ミコアイサ	カモ	3	7	
37	アメリカヒドリ	カモ	2	5	
38	クロハラアジサシ	カモメ	19	4	
39	ヨシガモ	カモ	3	4	
40	ヨシゴイ	サギ	1	4	VU
41	タシギ	シギ	1	3	RT
42	ツクシガモ	カモ	3	3	
43	アジサシ	カモメ	1	2	DD
44	クイナ	クイナ	2	2	VU
45	シマアジ	カモ	1	2	
46	ホオジロガモ	カモ	1	2	
47	アメリカウズラシギ	シギ	1	1	
48	エリマキシギ	シギ	1	1	
49	オグロシギ	シギ	1	1	
50	オジロトウネン	シギ	1	1	
51	キンクロハジロ	カモ	1	1	
52	クサシギ	シギ	1	1	
53	ケリ	チドリ	1	1	EN
54	シロチドリ	チドリ	1	1	LP
55	スズガモ	カモ	1	1	
56	タゲリ	チドリ	1	1	NT2
57	トウネン	シギ	1	1	
58	ハクチョウ	カモ	1	1	
59	ハジロカイツブリ	カイツブリ	1	1	NT1
60	ハジロコチドリ	チドリ	1	1	
61	ムナグロ	チドリ	1	1	
				1261	

CR	絶滅危惧 1A 類
EN	絶滅危惧 1B 類
VU	絶滅危惧 2 類
NT	準絶滅危惧
DD	情報不足
RT	地帯別危惧
LP	絶滅の恐れがある 地域個体群

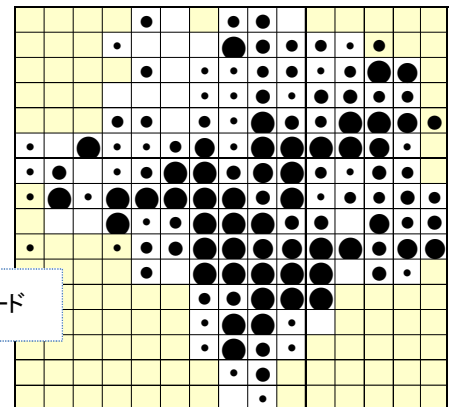
3. 昆虫

1. はじめに

この5年間に20余名の“市民観察員”から寄せられた「昆虫」の調査報告は4216件でその種類数は366種になりました。(種名が不完全や誤記、分布がされないなど10種が含まれています。)それは14目、100科の昆虫が報告されています。(右図)川越市で観察された昆虫に対応する埼玉県に生息する昆虫は約10717種です。(表を参照)川越市の調査結果が埼玉県の中でどの程度かを評価することは、市内での調査の妥当性を判断する基準と考えられます。種類数の少ない昆虫は、種類を網羅していると考えられます。この間11年間観察を続けてきたチョウから見ると埼玉県で見られる約40%になっており、市内の環境を考えるとこの程度は必要ではないかと考えられます。

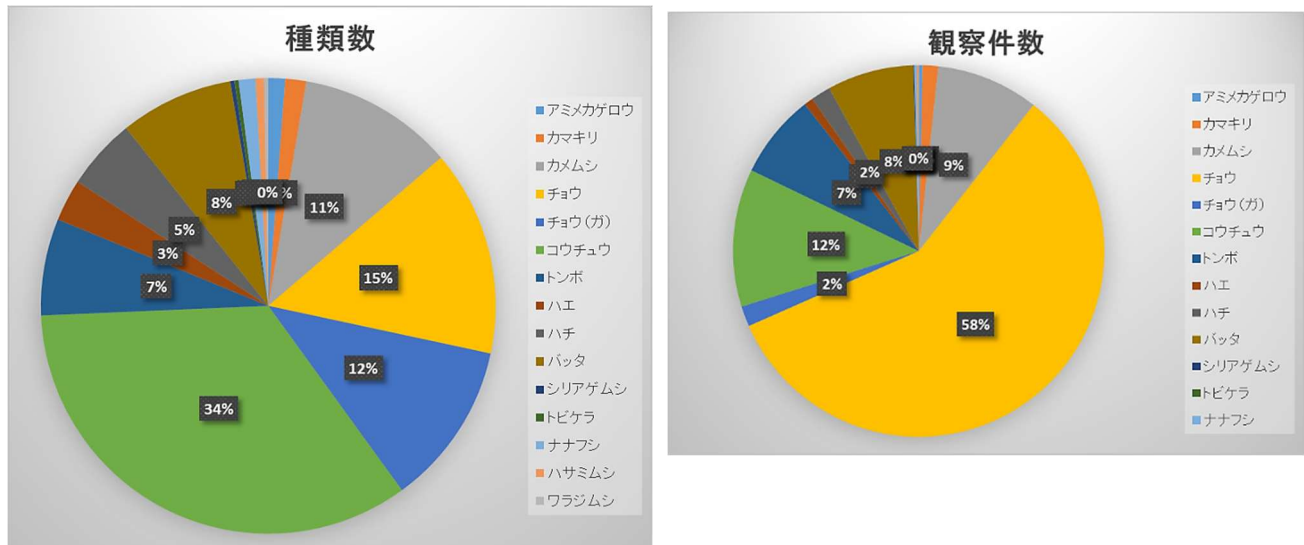
しかし、カメムシ目、チョウ(ガ)目、ハチ目、コウチュウ目、ハチ目は5%以下の観察で、市内の棲息や分布を知るためには今後の観察が必要となっています。この結果は、専門家でない市民が5年間で観察した生きものとしては大きな成果と思います。また、次のステップになると期待します。

目名	科数	川越内の種数	埼玉県の種数	県との比較%
カマキリ	1	6	6	100
ゴキブリ	2	3	4	75
ナナフシ	1	3	6	50
チョウ	5	56	139	40.3
(チョウ目ガ)	13	38	2449	0.15
トンボ	7	25	93	26.9
バッタ	10	28	129	21.7
ハサミムシ	1	2	15	13.3
アミメカゲロウ	2	4	73	5.5
コウチュウ	26	128	3562	3.6
ハチ	6	17	1151	1.56
ハエ	7	12	1921	0.62
シリアゲムシ	1	1	19	5.3
カメムシ	17	42	1057	3.97
トビケラ	1	1	93	1.1
合計	100	366	10717	3.4



2. 5年間の観察結果

これまでの観察結果を求めると、観察された種類数を目ごとにまとめると図(左)のようになります。最も多いのはコウチュウ目の128種類で約1/3になります。



次がチョウ目で56種です。カメムシ目、チョウ目(ガ)、バッタ目と続きます。

観察件数をグラフにするとチョウ目が60%近くになります(右のグラフ)。これは、チョウが観察しやすいことと、これまでの蓄積とスキルアップで観察件数を多数にしています。次はコウチュウ目で林での

観察が多いので見つけやすいと言えます。種類数のグラフからは、コウチュウ目が最も多く、チョウ目、チョウ目（ガ）、カメムシ目の順となっています。当然、種類数が多い昆虫が観察される機会が多くなります。そして、「(仮称)川越市森林公園」計画地、水上公園、池辺公園、寺尾調節池などで継続した観察が続けられており、そのために種類数が多くなっています。

市内では約 150 のメッシュに分けて調査をしており、昆虫の種（目）ごとにどれだけのメッシュで観察されるかを分析してみました。観察件数の多い順に観察メッシュ数のベストテンを示しました。

チョウ目				コウチュウ目				カメムシ目			
	種名	観察数	メッシュ数		種名	観察数	メッシュ数		種名	観察数	メッシュ数
1	モンシロチョウ	365	87	1	ナナホシテントウ	87	41	1	ミンミンゼミ	134	46
2	ヤマトシジミ	331	71	2	カブトムシ	25	11	2	ヒグラシ	40	14
3	ナミアゲハ	264	57	3	コクワガタ	17	6	3	ツクツクボウシ	38	29
4	ツマグロヒョウモン	195	46	4	シロテンハナムグリ	16	11	4	アブラゼミ	38	25
5	アカボシゴマダラ	157	35	5	キマワリ	16	8	5	ニイニイゼミ	20	18
6	クロアゲハ	104	28	6	オオヒラタシデムシ	13	9	6	キマダラカメムシ	14	12
7	ベニシジミ	77	42	7	マメコガネ	13	8	7	ヨコヅナサシガメ	12	8
8	キタキチョウ	74	34	8	ノギリクワガタ	13	4	8	アオバハゴロモ	10	5
9	モンキチョウ	70	39	9	アオドウガネ	12	7	9	ナガメ	9	9
10	コムスジ	66	28	10	ヨツボシケシキスイ	10	4	10	クサギカメムシ	5	4

チョウでは市内で広く観察される種が上位を占めています。(上左の表) 温暖化や園芸植物の普及で北上しているチョウも含まれています。また、1メッシュしか見つかっていないチョウは4種類(ミヤマセセリ、オオチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリ、キマダラセセリ)で絶滅が危惧されます。

中央の表はコウチュウ目の観察件数のベストテンです。意識的に調査したナナホシテントウ、次いで子どもに人気のカブトムシ、コガネムシの仲間が上位を占めます。しかし、1回しか観察されていない種が62種(約48%)もあり、継続的な観察が必要でしょう。

上右の表は3番目に多かったカメムシ目の順位です。セミが上位5番までを占めます。これは鳴き声でその種類を判別できる特徴があります。また、抜け殻でも判別ができるので鳴き声が聞こえなくとも観察ができます。キマダラカメムシ、ヨコヅナサシガメは最近川越でも増えておりよく目にすることができます。この間に1カ所しか見つかからないカメムシは26種(約62%)と多く今後の観察に期待しています。



ヨコヅナサシガメ



ヨコヅナサシガメ
脱皮直後は赤い

3. モニタリングから見た川越の昆虫

川越での昆虫観察ははじめての一步という状況ですが、4年間の観察で多くの種類の昆虫が様々な環境で生息していることが判りました。どのような種類がいるのかは生きものの観察のはじめです。市内には市街地、水辺、水田、樹林地、草地、耕作地など様々な環境があり、そこに生息する生きものもその環境に適応して命を繋いでいます。その生きものとその生態を明らかにし、生きものとの共生を実現して、人にも生きものにも住みやすい環境の保全を期待します。これまでの観察で得られた知見を昆虫の種類ごとに考えます。

(1) カマキリ目

種名	観察件数	メッシュ数
オオカマキリ	30	13
ハラビロカマキリ	14	7
コカマキリ	5	2
カマキリ(*1)	3	3
チョウセンカマキリ	2	2
キボシカマキリ(*2)	1	1
ムネアカハラビロカマキリ	1	1
(*1)総称		
(*2)種不明		

この目の昆虫の種類は多くなく、市内でほとんどのカマキリを見ることができます。草原や林縁で見かけることが多く、秋になると体が大きくなり攻撃的で掴まえて確認するには勇気がいります。特にオオカマキリは多く見られ、こどもにも人気のカマキリです。ハラビロカマキリは名前の通り腹部が太いので見分けることができます。コカマキリは茶色で保護色になっている個体が多く、ほかのカマキリと比べると見つけにくい種です。外来種のムネアカハラビロカマキリが見つ

かったことは川越にも分布してきていることの警鐘かもしれません。本種は攻撃的で在来のはらびろカマキリとの競合が心配されています。より詳しく解明するためには、まだ観察を続ける必要があります。

(2) アミメカゲロウ目

種名	観察件数	メッシュ数
クサカゲロウ	6	5
ウスバカゲロウ	6	1
アミメクサカゲロウ	1	1
オオクサカゲロウ	1	1

アミメカゲロウ目は林内やその周辺に多く、透明な翅の色、周囲に溶け込むなどで観察しにくい昆虫です。そのためか報告事例が少なく限られた場所での報告となっ

ています。ウスバカゲロウは樹木や建築物の雨が当たらない場所で幼虫が生活してアリを捕食し、羽化した後は林で生活します。農耕地にも見られるクサカゲロウは翅が緑色で小型の種なので判別はできます。卵塊は「優曇華(うどんげ)の花」と言われます。

カメムシ目一覧→

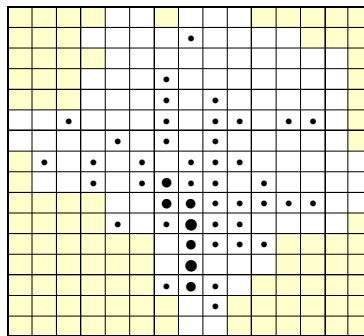
(3) カメムシ目

樹液を吸引する種から動物食のカメムシまで多くの種類が生息しています。県内では1000種を超えていますが、市内では42種類にとどまっています。市内で多く見られるカメムシはセミで5種類が見られます。セミは鳴き声や抜け殻で見分けることができ、親しみやすい昆虫と言えます。また、樹林地での生息が多く、セミの生存と深く関わっています。特にヒグラシ、ニイニゼミ、ツクツクボウシは樹林地が必要で良好な環境を好み、自然環境の指標ともなります。

アブラゼミは市街地でも発生し都市的なセミと言えます。ミンミンゼミ(下図)は農家の屋敷林などで発生しており、この存在は地域環境を現すことになります。数は多くありませんが西日本で多いクマゼミも声を聴くようになりました。



ツクツクボウシ



ミンミンゼミの分布

種名	観察数	メッシュ数
ミンミンゼミ	134	46
ツクツクボウシ	38	29
ヒグラシ	40	14
アブラゼミ	38	25
ニイニゼミ	20	18
キマダラカメムシ	14	12
ヨコヅナサシガメ	12	8
アオバハゴロモ	10	5
ナガメ	9	9
クサギカメムシ	5	4
クマゼミ	5	3
ホシハラビロヘリカメムシ	5	3
ヘリカメムシ	4	4
ヒメナガメ	4	3
ヒメアメンボ	3	1
スケバハゴロモ	2	2
カタピロアメンボ	2	1
セアカツノカメムシ	2	1
ヒメジュウジナガカメムシ	2	1
コマツモムシ	2	1
ツマグロオオヨコバイ	2	1
ヒメホシカメムシ	1	1
ナガグロカスミカメ	1	1
アオカメムシ	1	1
アオクサカメムシ	1	1
カメムシ	1	1
シラホシカメムシ	1	1
アカギカメムシ	1	1
アカスジキンカメムシ	1	1
アカサシガメ	1	1
シマサシガメ	1	1
セミ	1	1
ハルゼミ	1	1
マルツチカメムシ	1	1
エサキモンキツノカメムシ	1	1
ツノアカツノカメムシ	1	1
ハサミツノカメムシ	1	1
キバラヘリカメムシ	1	1
ハラビロヘリカメムシ	1	1
ホオズキカメムシ	1	1
クモヘリカメムシ	1	1
マルカメムシ	1	1
ツマグロヨコバイ	1	1
シマカメムシ	1	1
ヘリアカカメムシ	1	1
ヤマアカツノカメムシ	1	1
オオホシカメムシ	1	1

ナガメはアブラナ科の葉を食草としており、比較的多くの場所で観察することができます。キマダラカメムシとヨコヅナサシガメは最近増加傾向にあり、桜、カエデ、ヤナギで観察されます。ヨコヅナサシガメは独特の模様と食虫昆虫で南方系の昆虫で温暖化により北上しています。



アカハネナガウンカ

珍しいカメムシとして、アカハネナガウンカは水辺で夏に現われ、ススキなどのイネ科の植物を吸引します。市内では3カ所で観察しました。アオバハゴロモ、ツマグロオオヨコバイなど樹林地や河川敷で観察できます。しかし、多くのカメムシは1回のみ観察で市内での生息状況は今後の課題です。水辺のカメムシはア

メンボ（2種）とコマツモムシでした。

コウチュウ目一覧→

(4) コウチュウ目

県内には3500種以上が知られる最多の昆虫で、市内でも最も多くの種類が見つかっています。この昆虫は夏に多く出現し、こどもに人気のカブトムシはその代表です。モニタリングでは128種類のコウチュウが見つかりました。その他に水生コウチュウは7種が見つかりました。

雑木林の中には多くのコウチュウ目が生息し、カブトムシ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、カナブン、多くのカミキリムシ類が報告されています。

夏に木から染み出す樹液にはコウチュウ目、チョウ目、ハチ目などがやってきます。特にカブトムシ、ノコギリクワガタ、ヨツボシケシキスイなどが姿を見せます。枯れ木や伐採木にはヤマトタマムシやカミキリムシがやってきます。最も多く観察されたのはナナホシテントウで明るい草地など色々な場所で見つけることができました。草地、農耕地のそば、河川敷の土手など。しかし、ナミテントウは報告数も少なく、観察メッシュも多くありませんでした。

シロテンハナムグリ、オオヒラタシデムシ、キマワリは林で見られるコウチュウ目ですが、林が少ないことで観察例が少ない理由となっているか



キマダラミヤマカミキリ

もしれません。マメコガネとアオドウガネは樹木の葉を食害するコウチュウ目で害虫として嫌われています。アオドウガネは現在北上中で川越でも多く見られるようになってきました。

カミキリムシは22種類で雑木林にはキマダラミヤマカミキリ、ゴマフカミキリな

種名	観察数	メッシュ数
ナナホシテントウ	87	41
カブトムシ	25	11
コクワガタ	17	6
シロテンハナムグリ	16	11
キマワリ	16	8
オオヒラタシデムシ	13	9
マメコガネ	13	8
ノコギリクワガタ	13	4
アオドウガネ	12	7
ナミテントウ	10	8
ヤマトタマムシ	10	7
ヨツボシケシキスイ	10	4
ノコギリカミキリ	9	3
ウリハムシ	8	4
クロウリハムシ	7	5
コフキコガネ	7	2
ゴマダラカミキリ	6	4
カナブン	6	4
コアオハナムグリ	5	5
キボシカミキリ	5	4
カタシロゴマフカミキリ	5	2
エゴツルクビオトシブミ	4	3
クロカナブン	4	3
ブタクサハムシ	4	3
トウキョウヒメハンミョウ	4	3
オオクチキムシ	4	2
コガネムシ	4	2
ヒメコガネ	4	2
オオクロクシコメツキ	4	2
シラホシハナムグリ	3	3
コメツキムシ	3	3
ハンミョウ	3	3
アオオサムシ	3	2
ナガニジゴミムシダマシ	3	2
オオクシヒゲコメツキ	3	2
スグリゾウムシ	3	2
タケトラカミキリ	3	1
ヒラタガムシ	3	1
ホシボシゴミムシ	2	2
カミキリムシ	2	2
クワカミキリ	2	2
クチキムシ	2	2
シデムシ	2	2
アオマダラタマムシ	2	2
ヨツボシテントウダマシ	2	2
ニジュウヤホシテントウ	2	2
コガタリハムシ	2	2
ヤナギリハムシ	2	2
ヒメハンミョウ	2	2
オオゴミムシ	2	1
ハイイロチョッキリ	2	1
ナガゴマフカミキリ	2	1
ベニカミキリ	2	1
コガムシ	2	1
ゴマフガムシ	2	1
ヒメガムシ	2	1
コシマゲンゴロウ	2	1
チビゲンゴロウ	2	1
センチコガネ	2	1
ヒメロウドコガネ	2	1
アカヒゲヒラタコメツキ	2	1
サビキコリ	2	1
ジョウカイボン	2	1
アルファルファタコゾウムシ	2	1
カキゾウムシ	2	1
クワハムシ	2	1
ジंगाサハムシ	2	1
オハボタル	2	1

ど、河畔林にはクワカミキリ、キボシカミキリなど食草によって生息を分けています。

林のエゴノキにエゴツルクビオトシブミが見つかります。食草が限られマニアックな昆虫です。この他にコメツキムシでオオクシヒゲコメツキ、オオクロクシコメツキが観察されましたが、遭遇する機会が少ない種です。タマムシの中でアオマダラタマムシが2カ所で見つかりました、この昆虫は県のレッドリストに入っています。



エゴツルクビオトシブミ

1回しか観察されないコウチュウ目は62種もあり、観察された市内のコウチュウ目は県内の昆虫の3%のみで、これからの取り組みを期待することになります。

チョウ目一覧→

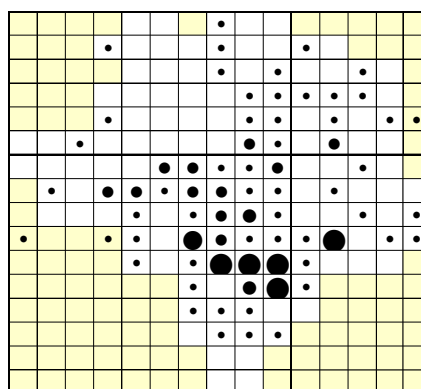
(5) チョウ目

市内で見られるチョウは55種が観察され報告されました。これまでの結果から、毎年コンスタントに見られる数まで到達しました。報告件数の多さと合わせると昆虫の中でも市の現状を示していると考えられます。報告をまとめるとアゲハチョウ科7種、シジミチョウ科12種、シロチョウ科5種、セセリチョウ科7種、タテハチョウ科24種となりました。

チョウは多くのメッシュで観察され、親しみやすい存在で、かつ見つけやすい昆虫と言えます。しかし、セセリチョウはほかのチョウの1割の報告にとどまっています。それは、地味な色のチョウが多く、体長も大きくなく、飛び方も直線的なので見つけにくいことも要因となっているのかもしれませんが。

市内でよく観察されるチョウはモンシロチョウ、ナミアゲハ(右図)、ヤマトシジミです。市内の広い範囲および様々な環境に生息しています。モンシロチョウはアブラナ科の植物が食草で家庭菜園などに多く分布していますが、水田でも畔の植物で生活しています。ナミアゲハは飛行能力が高く、人家のミカン科の樹木に依存して生存を維持しています。ヤマトシジミは

ナミアゲハの分布



種名	観察数	メッシュ数
モンシロチョウ	365	87
ヤマトシジミ	331	71
ナミアゲハ	264	57
ツマグロヒョウモン	195	46
アカボシゴマダラ	157	35
クロアゲハ	104	28
ベニシジミ	77	42
キタキチョウ	74	34
モンキチョウ	70	39
コムシジ	66	28
ツバメシジミ	50	30
アオスジアゲハ	46	25
キタテハ	45	18
ヒメウラナミジャノメ	44	24
イチモンジセセリ	42	25
サトキマダラヒカゲ	37	18
キアゲハ	34	17
ヒカゲチョウ	32	14
ルリタテハ	28	10
ジャコウアゲハ	24	13
ムラサキシジミ	23	8
イチモンジチョウ	21	12
ヒメアカタテハ	21	10
テングチョウ	18	10
クロノマチョウ	18	5
ダイミョウセセリ	16	8
スズグロシロチョウ	15	11
ナガサキアゲハ	13	7
ウラナミアカシジミ	12	6
コムラサキ	12	6
アカシジミ	11	6
ヒメジャノメ	10	7
ウラナミシジミ	10	5
アサマイチモンジ	10	5
チャバネセセリ	9	7
ミスズイロオナガシジミ	8	6
ムラサキツバメ	8	6
コシロシタバ	8	5
ウラギンシジミ	7	6
ルリシジミ	7	5
アカタテハ	7	4
ゴマダラチョウ	6	5
ヒオドシチョウ	5	4
カラスアゲハ	4	3
ツマキチョウ	3	3
コジャノメ	2	2
ミスジチョウ	2	2
ミドリヒョウモン	2	2
ゴイシジミ	1	1
キチョウ	1	1
オオチャバネセセリ	1	1
ギンイチモンジセセリ	1	1
ミヤマセセリ	1	1
ミヤマチャバネセセリ	1	1
ウラナミジャノメ	1	1
ジャノメチョウ	1	1
ヒメキマダラヒカゲ(分布不明)	1	1
ウラナミヒメジャノメ(分布不明)	1	1
キモンシロチョウ(誤記)	1	1
ヒメウラナミシジミ(分布不明)	1	1

狭い環境でも食草のカタバミに依存して粘り強く生活しており道端の小さな空き地など様々な環境で見ることができます。姿が類似しているツバメシジミは水田や水辺近くの明るい草地に多く見られ、市街地や台地に多いヤマトシジミと棲み分けが行われてように見えます。

温暖化の影響で、市内に定着し、分布が広がっているツマグロヒョウモンは広い範囲で観察されています。ナガサキアゲハも見る機会が多くなっており、クロアゲハと混同しやすいので、実態は分布が広がっていると推測されます。ムラサキツバメやクロコノマチョウは樹林地に生息するので観察されることは少なくなっています。

黄色が目立つチョウのキタキチョウ（キチョウ）とモンキチョウは生息域が異なります。モンキチョウは開けた環境に多く、河川敷や水辺近くの草地、キタキチョウは樹林地の林縁や広い範囲で見かけます。



ゲンイチモンジセセリ

水辺近くに多いチョウとして、ヒメウラナミジャノメとヒメジャノメがいます。市内には河川や水路があり、その周辺で多く見られます。また 2021 年に豊田本でゲンイチモンジセセリを市内初めて観察しました。（過去には 2 カ所で報告ありました）ヤナギを食草とするコムラサキは水上公園、寺尾調節池などで見つっています。ヤナギの減少と共に見つかる場所も限定されています。

秋になると北上してその数を増やすイチモンジセセリやチャバネセセリなどのセセリチョウがいます。また、豆の害虫のウラナミシジミは家庭菜園などでよく見られますが、観察場所は多くありません。

雑木林に依存しているアカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミは限定された林で生息が確認されます。とりわけウラナミアカシジミは手入れの行き届いた雑木林でないと生息できないので、放置された林が増えるにつれて減少する危惧が持たれます。



ウラナミアカシジミ

また、ヒオドシチョウやゴマダラチョウはエノキを食草として、林の樹液を食餌としており、その頭数が限定的となっています。一方、サトキマダラヒカゲとヒカゲチョウは雑木林だけでなく、水田地帯の古くからの社寺林などで生息を続けており、飛び飛びですが市内に分散して生息地があります。しかし、間伐されると薄暗い環境がなくなりその数を減らす恐れがあります。どのようにして、現在の神社の環境を保つかが課題となります。観察件数と見つかるメッシュ数が少ないチョウは、市内でも絶滅の恐れがあり、どのように保全するかの検討が必要です。

(6) チョウ（ガ）目（チョウを除くガの仲間）

市内で観察が進んでいない昆虫です。ガの種類は多く、行動は夜間が多い、葉の裏にすぐ隠れるなど観察には慣れていない、専門家が少なく、趣味とする市民が少ないことなどで観察が進まない理由かもしれません。（畑の害虫、色彩が地味で注意が届かない。もちろん例外もありますが） 見つけた種類は 13 科 42 種類です。雑木林やその周辺で見られる種類が多く報告されています。

科名	観察件数	種数	メッシュ数
カレハガ	1	1	1
シャクガ	12	10	12
スズメガ	20	8	13
ツバメガ	1	1	1
ドクガ	6	3	5
ハネナハウシカ	3	1	3
ヒゲナガガ	4	1	4
ヒトリガ	7	2	4
ヒロズコガ	1	1	1
マダラガ	2	2	2
ミノガ	2	2	2
ヤガ	17	8	10
ヤママユガ	6	3	2

スズメガの中でオオスカシバやホシホウジャクなどはガの中でも飛行能力が高く花の蜜を求めて昼間に見かけます。そのために観察例が増えています。また、ヤブカラシを食草とするコスズメなどは食草の存在に合わせて、その独特の風貌から幼虫でも存在感があり、観察が多くなっています。ヤガ類では雑木林に普通に見られるコシロシタバの報告が多くされています。

ヤママユガは大型の種類で蚕糸（虫が出す糸）として利用されたこともある自然素材です。ブナ科の樹木の葉を食草としており、雑木林では羽化した後の繭を見つけることもあり、ウスタビガの抜け殻も見つかっており、これらのガの生息を示しています。

林のガの幼虫は春の野鳥の渡りや繁殖期に該当し、この子育てを助け、野鳥の行動は林の食害の防止に役立っていると言われてしています。

まだまだ分かっていないガの世界ですが、もっと多くの目で関心を持ってもらえるようになるとよいのではないかと思います。



ヤママユガ



ウスタビガの繭

(7) トンボ目

童謡にも歌われたトンボは懐かしいノスタルジアを感じさせてくれる昆虫です。そして幼虫は水中、成虫は林と二つの環境を必要とする昆虫です。

アキアカネは水田でヤゴとして成長し、羽化してから水辺を離れ、長距離を移動して山地で過ごします。秋になると下に降りてきて産卵をしてその一生を終えます。福原で6月に移動中のアキアカネを2年観察しています。そして9月中旬に林や畑で赤くなったトンボを見ます。

水田や水辺・水路の多い川越でトンボの生息環境は豊富なので多くの種類の期待ができます。しかし、トンボは飛行能力が飛びぬけて高く、捕獲はもちろんのこと種の判別が難しい昆虫となっています。しかし、水中にはヤゴとして1年から数年生息するので、幼虫の時期に水路や河川で観察すると、トンボの生息を知ることができます。

それでも23種のトンボを確認できました。よく見ることができるのはシオカラトンボ（下図）で水辺だけではなく、農耕地、林縁、住宅地でも広く見られ、少くらの水の汚れ



アキアカネ

でも繁殖できる丈夫さを持っています。ウスバキトンボは飛行能力が高く、大陸から飛んできて秋になると群れで飛行している姿をよく見かけます。温かい地域で発生をくり返し北上する習性を持っていますので秋にしか見ることはできません。

黒い翅と不規則な飛行が特徴なハグロトンボは水田、水路、河川敷周辺を中心に比較的多くの場所で見ることができます。そして発生する場所では10数匹の個体数が見られ、水辺と周囲の樹林があると生

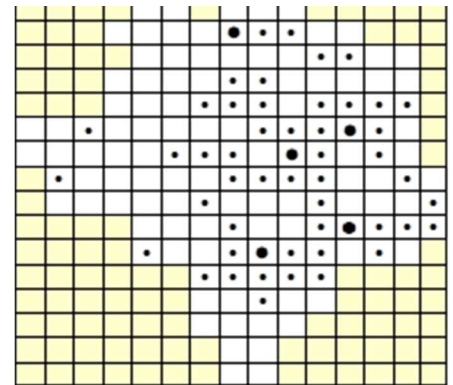
科名	観察件数	メッシュ数
シオカラトンボ	103	53
アキアカネ	67	29
ハグロトンボ	34	16
ウスバキトンボ	25	20
ギンヤンマ	21	12
アジイトトンボ	10	7
ウチワヤンマ	9	4
コシアキトンボ	8	8
コノシメトンボ	6	4
ミヤマアカネ	5	4
チョウトンボ	4	4
オオシオカラトンボ	3	2
オニヤンマ	2	2
ナツアカネ	2	2
サラサヤンマ	2	2
クロイトトンボ	2	1
コオニヤンマ	2	1
ヤマサナエ	2	1
アオモンイトトンボ	1	1
イトトンボ	1	1
ニホンカワトンボ	1	1
シオヤトンボ	1	1
ノシメトンボ	1	1
コヤマトンボ	1	1
カトリヤンマ	1	1

息が維持できる市内では普通のトンボです。

池に見られるギンヤンマは意外と行動範囲が広く、避暑に林で過ごしたり、水田上空を飛行したり、まれに市街地でも見ることが出来ます。水路の上を飛行するギンヤンマをたびたび見かけました。もちろん寺尾調節池などの止水域の水辺環境にも生息しています。

ヤンマ類やサナエ類は水質が良好な河川の上流域に生息するトンボで出会うのが困難な種類です。この種のトンボが見つかることは市内にまだ生息できる河川が残っていることの証拠です。水質と共に周辺の樹林などの環境を保全することが大切になっています。とりわけ、水田で成長、羽化し周辺の樹林地で暮らすカトリヤンマが見つかりました。川越で水田と樹林地が一体となっている環境の保全を望みたいと思います。

シオカラトンボの分布



(8) ハエ目

ハエは身近な存在ですが、負の印象が強いのが特徴です。県内に約 2,000 種類のハエ目が生存していますが、衛生害虫として嫌われているのは一握りです。花粉や樹液を餌とする種類もいて地味な昆虫です。よく観察されているのはシオヤアブで林縁や草地などで多く観察されています。



シオヤアブ コウチュウを捉えている

その他のハエ目の昆虫は散発的な観察となっており、市内での分布や役割の解明は今後の課題です。

科名	観察件数	メッシュ数
シオヤアブ	14	7
ヒラタアブ	9	8
クロバネツリアブ	3	3
ホソヒラタアブ	3	3
マダラホソアシナガバエ	3	2
ショウジョウバエ	2	2
ガガンボ(*1)	2	2
ヌカカ(*1)	2	1
クロアシソケバエ	1	1
ヒサマツハチモドキハナアブ	1	1
ミナミヒラタアブ	1	1
オオイシアブ	1	1
アミメアブ(*2)	1	1
ムシヒキアブ(*1)	1	1
(*1)総称		
(*2)アオメアブの誤記		

(9) ハチ目

ハチ目は 18 種類を見つけました。主に飛行しているハチの仲間ですが、2 種のアリが含まれています。

最も多く観察されたのは食虫食のハチのオオスズメバチです。ハチの中では最大で最強の昆虫です。体長が大きいので簡単に識別でき、印象が強いため見つけやすいと考えられます。特に林縁に多く見られ、木の樹液に頻りにやってくるが多い。特にスズメバチ科のハチは攻撃性が強く、毒も多いために、嫌われて、観察するには勇気がいるので、観察例は多くないのが実情です。また、捕獲するには大変で身近に見て識別するには困難な昆虫と言えます。

次に多く観察されたのはニホンミツバチです。訪花性のハチで花が咲いている、開けて明るい場所では多く見つかっています。アリは市内の市街地から農耕地、樹林地まで多くの種類が棲息していま

科名	観察件数	メッシュ数
オオスズメバチ	19	11
ニホンミツバチ	14	13
セイヨウミツバチ	7	5
クマバチ	6	6
スズメバチ(*1)	5	5
キロスズメバチ	4	3
アシナガバチ(*1)	3	2
クロオアリ	3	1
モンスズメバチ	2	2
セイヨウオオマルハナバチ	2	2
マルハナバチ	2	2
ジガバチ(*1)	2	1
トゲアリ	2	1
クロアリ	1	1
コマユバチ	1	1
ムネアトゲコマユバチ	1	1
コアシナガバチ	1	1
スズバチ	1	1
オオハキリバチ	1	1
チュウレンジバチ	1	1
トラマルハナバチ	1	1
ミツバチ(*1)	1	1
(*1)総称		

すが、2種類だけでそれも樹林地に生息するアリのみです。トゲアリはクロオオアリの巣を乗っ取るなど社会性を持っています。生息は限定的です。



コガタスズメバチ



トゲアリ

(10) バッタ目

秋になると増加するバッタ類。明るい草原を主な生活の場所として暮らしています。川越では河川敷、公園の草地、休耕地などが主な生活の場となっています。バッタは歩くそばから音を出したり急に飛び出したりしてその存在を気づかせます。ほとんどが草食性で広範囲な植物を餌とします。

最も多く見られるのはショウリョウバッタで観察例もメッシュ数も多く、河川敷や休耕地、公園などで広く見られます。体と足が長くよく飛ぶのですぐに判り、多く観察されるのは理解できます。形は似ていますが体長と足が短くオスをおんぶしているのでオンブバッタは目立たないためか観察例が少なくなっています。トノサマバッタは広い範囲の草地を必要としており、観察例は少し少なくなっています。コバネイナゴ（イナゴ）は水田地域に生息し、畔や水路わきの草地が生息場所です。



上：オンブバッタ 下：ヤブキリ

雑食性のコオロギはエンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、ツツレサセコオロギとミツカドコオロギで人家、田畑、林などの石や枯れ葉の下で隠れ夜行性です。これらは観察が進んでないので実態はまだよく判っていません。しかし、住宅地でも鳴き声が聞こえるので判別できれば解明できるかと思えます。

このモニタリングでキリギリス、クツワムシ、ハヤシノウマオイが見つかったのは大きな成果だと思います。過去には身近な昆虫として秋の夜にその鳴き声を聞くことが普通でしたが、まだ生息できる環境があること、それらが世代を引き継いでいることに希望が持てます。

外来種のアオマツムシは秋の深まりとともに木の上からうるさいくらいの鳴き声が聞こえますので、一度聞き分けることができれば、もっと観察例が増えることと思えます。

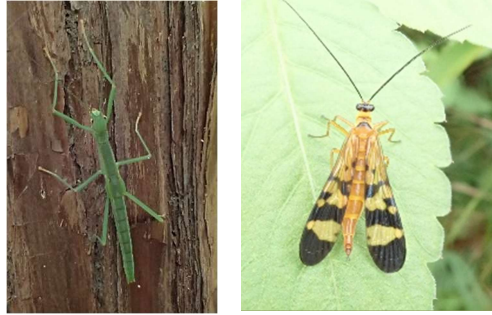
バッタの一覧 32種

種名	観察件数	メッシュ数
ショウリョウバッタ	76	54
オンブバッタ	51	31
トノサマバッタ	31	23
コバネイナゴ	22	15
イナゴ(*1)	20	15
クビキリギス	19	11
ウスイロササキリ	14	12
ヒシバッタ(*1)	14	8
ハラヒシバッタ	12	10
クルマバッタモドキ	11	10
エンマコオロギ	10	8
クルマバッタ	8	5
ツチイナゴ	7	5
ツユムシ	6	3
ササキリ	5	5
イボバッタ	5	4
ハラオカメコオロギ	4	3
アオマツムシ	4	3
セスジツユムシ	3	3
マダラカマドウマ	3	2
ヤブキリ	3	2
ヒメバッタ(*2)	2	2
キリギリス	2	1
カマドウマ(*1)	1	1
ハヤシノウマオイ	1	1
クサキリ	1	1
クツワムシ	1	1
オカメコオロギ	1	1
ツツレサセコオロギ	1	1
バッタ(*1)	1	1
ハネナガイナゴ	1	1
ケラ	1	1
(*1)総称		
(*2)ヒナバッタの誤記		

(11) その他の昆虫

シリアゲムシ目ではヤマトシリアゲが1メッシュで、ナナフシ目は4種類が見つかりましたが、ヤスマツトビナナフシ、エダナナフシは埼玉県で絶滅危惧種となっており、川越に生息できる環境が存在していることが判ります。ハサミムシは3種で、カゲロウ目、トビケラ目も1種の報告がありました。これらの昆虫は観察が行き渡っていないことで今後の観察に期待したいと思います。

左：ヤスマツトビナナフシ
右：ヤマトシリアゲ



目名	種名	観察数	メッシュ数
ゴキブリ	ヤマトゴキブリ	4	3
	チャバネゴキブリ	1	1
	モリチャバネゴキブリ	5	3
シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	3	1
ナナフシ	エダナナフシ	1	1
	ナナフシモドキ	3	2
	ヤスマツトビナナフシ	3	2
	ナナフシ(*1)	1	1
ハサミムシ	ハサミムシ	3	2
	ヒゲジロハサミムシ	1	1
	ホシゲジロハサミムシ	1	1
カゲロウ	カゲロウ	1	1
トビケラ	ヨツメトビケラ	1	1
(*1) 総称			

4. 観察結果から見てくる川越の自然

(1) 結果からのまとめ

市民のモニタリングから判ったことは、以下のようなことです。

- ① 継続して調査しているエリアでは多くの種類の昆虫を観察しています。
- ② 目立ちやすい種やこれまで続けている昆虫（特にチョウ）は広い範囲で観察できています。
- ③ トンボは水辺と樹林地が必要で、長い距離を移動する種、水辺近くで移動の少ない種も判りました。
- ④ 河川敷やそれに続く草はらは開けた環境を好むバッタやチョウそれを捕食するカマキリ、ハチなど昆虫が観察できる大切な場所となっています。
- ⑤ 雑木林に依存するチョウやハチの間では放置された林では生息が困難な種もいて、人の手による手入れによってかろうじて生き延びています。
- ⑥ 古くからの神社、屋敷林には暗い場所を好むチョウなどが見られ保存スポットとなっています。
- ⑦ 温暖化で北上している種が頻繁に観察されるため、生きものの相が静かに変化しているのが予想され、これからの変化を見続ける必要があります。

観察会や調査



雑木林で



田んぼで



草原で

(2) 川越の昆虫を守るために

生きものの種を保全することは大切なことです。その生物の生存を保全するとともに生息環境を保全することも基本的なことです。そのためには、個体群を保存するために自然環境の一定の広がりが必要とすることは自明のことです。また、食草や食餌、他の生きものとの共生関係を考えたときに、これらの動植物の保全も合わせて行なわなければなりません。

- ① 現在市内で絶滅が危惧される、国や県の絶滅危惧種の保全は緊急の課題です。市内におけるレッドリストに掲載されている種は表の通りで、これらがその対象になります。チョウは比較的観察が進んでいるので、絶滅危惧種が判明しています。チョウ目（ガ）、コウチュウ目、カメムシ目などは調査が進んでいないので、絶滅危惧種はどれだけいるのか推量も困難です。
- ② 林や水辺の環境に生息している生きものにとって、管理の放棄や外来種の繁茂で危機的な状況になっています。とりわけこれらの環境に依存する度合いが多いほど、その生息が危ぶまれています。国・県のRDBでなくともその環境が減少している場所に生息している生きものは保全の対象になるのではと思います。アカシジミ、ウラナミアカシジミなどのゼフィルス類、ノギリクワガタなどのクワガタムシ、タマムシなどもその中に入ると考えられます。
- ③ 温暖化の影響はチョウ、カメムシで現れてきています。温暖化防止対策を拡充する市段階の計画が求められているし、市民参加の温暖化防止活動の一層の推進が必要です。その活動を推進しながら、生きものの温暖化による影響の現状の把握が早急に求められています。また希少種の生息環境が開発される流れが変わっていません。川越市の環境配慮指針を拡充して公共事業だけでなく民間の事業にも広めていく必要があると考えられます。
- ④ 市内に広がっている外来種の扱いです。基本的には駆除することが必要です。しかし、現在の生態系にどのような影響を与えているのかを把握しなくてはなりません。例としてブタクサハムシがありますが、オオブタクサを摂食することが知られています。ただ一面に繁茂しているオオブタクサを食べるわけではありませぬのでどの程度に役に立っているのは不明です。（機械的に刈り取っていますが毎年繁茂しておりエンドレスです）この課題はまだ先のようです。

目	種名	種別
チョウ目	ミヤマセセリ	NT1
	ヒオドシチョウ	VU
	ギンイチモンジセセリ	NT2
	ゴイシジミ	NT2
	アサマイチモンジ	NT2
	ミスジチョウ	NT2
	ジャノメチョウ	NT2
コチャバネセセリ	NT2	
チョウ目（ガ）	ヤママユ	RT
コウチュウ	ガムシ	CR
	アオマダラタマムシ	NT2
カメムシ	ハルゼミ	NT1
	ツノアカツノカメムシ	NT1
ナナフシ	ヤスマツトビナナフシ	NT2
バッタ	クツワムシ	EN
	ヒナバッタ	NT1
	クルマバッタ	NT2
トンボ	サラサヤンマ	NT2

生き物の育つ空間



入間川・河川敷



田んぼ



雑木林

昆虫調査結果一覧表

	種名	目名	科名	備考
1	ウスバカゲロウ	アミメカゲロウ	ウスバカゲロウ	
2	アミメクサカゲロウ	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	
3	クサカゲロウ	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	
4	オオクサカゲロウ	アミメカゲロウ	クサカゲロウ	
5	オオカマキリ	カマキリ	カマキリ	
6	キボシカマキリ	カマキリ	カマキリ	不明
7	コカマキリ	カマキリ	カマキリ	
8	チョウセンカマキリ	カマキリ	カマキリ	
9	ハラビロカマキリ	カマキリ	カマキリ	
10	ムネアカハラビロカマキリ	カマキリ	カマキリ	
11	アオバハゴロモ	カメムシ	アオバハゴロモ	
12	カタビロアメンボ	カメムシ	アメンボ	
13	ヒメアメンボ	カメムシ	アメンボ	
14	ヒメホシカメムシ	カメムシ	オオホシカメムシ	
15	ナガグロカスミカメ	カメムシ	カスミカメムシ	
16	アオクサカメムシ	カメムシ	カメムシ	
17	キマダラカメムシ	カメムシ	カメムシ	
18	クサギカメムシ	カメムシ	カメムシ	
19	シラホシカメムシ	カメムシ	カメムシ	
20	ナガメ	カメムシ	カメムシ	
21	ヒメナガメ	カメムシ	カメムシ	
22	アカギカメムシ	カメムシ	キンカメムシ	
23	アカスジキンカメムシ	カメムシ	キンカメムシ	
24	アカサシガメ	カメムシ	サシガメ	
25	シマサシガメ	カメムシ	サシガメ	
26	ヨコヅナサシガメ	カメムシ	サシガメ	
27	アブラゼミ	カメムシ	ゼミ	
28	クマゼミ	カメムシ	ゼミ	
29	ツクツクボウシ	カメムシ	ゼミ	
30	ニイニイゼミ	カメムシ	ゼミ	
31	ハルゼミ	カメムシ	ゼミ	時季不適合
32	ヒグラシ	カメムシ	ゼミ	
33	ミンミンゼミ	カメムシ	ゼミ	
34	マルツチカメムシ	カメムシ	ツチカメムシ	
35	エサキモンキツノカメムシ	カメムシ	ツノカメムシ	
36	セアカツノカメムシ	カメムシ	ツノカメムシ	
37	ツノアカツノカメムシ	カメムシ	ツノカメムシ	
38	ハサミツノカメムシ	カメムシ	ツノカメムシ	
39	スケバハゴロモ	カメムシ	ハゴロモ	
40	キバラヘリカメムシ	カメムシ	ヘリカメムシ	
41	ハラビロヘリカメムシ	カメムシ	ヘリカメムシ	
42	ホオズキカメムシ	カメムシ	ヘリカメムシ	
43	ホシハラビロヘリカメムシ	カメムシ	ヘリカメムシ	
44	クモヘリカメムシ	カメムシ	ホソヘリカメムシ	
45	ヒメジュウジナガカメムシ	カメムシ	マダラナガカメムシ	
46	コマツモムシ	カメムシ	マツモムシ	水生
47	マルカメムシ	カメムシ	マルカメムシ	
48	ツマグロオオヨコバイ	カメムシ	ヨコバイ	
49	ツマグロヨコバイ	カメムシ	ヨコバイ	
50	シマカメムシ	カメムシ		
51	ヘリアカカメムシ	カメムシ		不明
52	ヤマアカツノカメムシ	カメムシ		
53	アカキノコエンマムシ	コウチュウ	エンマムシ	
54	エンマムシ	コウチュウ	エンマムシ	
55	ヨトボシオオキスイ	コウチュウ	オオキスイ	
56	ムナビロオオキスイ	コウチュウ	オオキスイムシ	
57	オオキノコムシ	コウチュウ	オオキノコムシ	
58	アオオサムシ	コウチュウ	オサムシ	
59	アオゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
60	スジアオゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
61	ツヤアオゴモクムシ	コウチュウ	オサムシ	
62	ホシボシゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
63	マルガタゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
64	ヨリトモナガゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
65	ゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
66	アシミゾナガゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	準絶滅危惧
67	アトボシアオゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
68	オオオサムシ	コウチュウ	オサムシ	
69	オオゴミムシ	コウチュウ	オサムシ	
70	ハイロチョッキリ	コウチュウ	オトシブミ	
71	エゴツルクビオトシブミ	コウチュウ	オトシブミ	
72	カタシロゴマフカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
73	キイロトラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
74	キボシカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
75	キボシゴマダラ	コウチュウ	カミキリムシ	不明
76	キマダラミヤマカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
77	クロトラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
78	クワカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
79	ゴマダラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
80	タケトラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
81	トラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
82	ナガゴマフカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
83	ノコギリカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
84	ヒメヒゲナガカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
85	ベニカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
86	ベニバハナカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
87	マダラカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
88	ミツバカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
89	ヤハズカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
90	ルリカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
91	ルリボシカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
92	ウスバカミキリ	コウチュウ	カミキリムシ	
93	コガムシ	コウチュウ	ガムシ	水生
94	ゴマフガムシ	コウチュウ	ガムシ	水生
95	ヒメガムシ	コウチュウ	ガムシ	水生
96	ヒラタガムシ	コウチュウ	ガムシ	水生
97	クチキムシ	コウチュウ	クチキムシ	
98	オオクチキムシ	コウチュウ	クチキムシ	
99	コクワガタ	コウチュウ	クワガタムシ	
100	ノコギリクワガタ	コウチュウ	クワガタムシ	
101	ヨトボシケシキスイ	コウチュウ	ケシキスイ	
102	ゲンゴロウ	コウチュウ	ゲンゴロウ	水生
103	コシマゲンゴロウ	コウチュウ	ゲンゴロウ	水生
104	チビゲンゴロウ	コウチュウ	ゲンゴロウ	水生
105	アオカナブン	コウチュウ	コガネムシ	
106	アオドウガネ	コウチュウ	コガネムシ	
107	カナブン	コウチュウ	コガネムシ	
108	カブトムシ	コウチュウ	コガネムシ	
109	キンイロハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	不明
110	クロカナブン	コウチュウ	コガネムシ	
111	クロコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
112	クロハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
113	クロマルエンマコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
114	アオハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
115	コガネムシ	コウチュウ	コガネムシ	
116	コフコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
117	サクラコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
118	シラホシハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
119	シロテンハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
120	スジコガネ	コウチュウ	コガネムシ	

	種名	目名	科名	備考
121	センコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
122	ハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
123	ヒゲブトハナムグリ	コウチュウ	コガネムシ	
124	ヒメコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
125	ヒメビロウドコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
126	マメコガネ	コウチュウ	コガネムシ	
127	ヒゲブトハムシダマシ	コウチュウ	コムシダマシ	
128	キマワリ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
129	ゴミムシダマシ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
130	セスジナガキマワリ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
131	ナガニジゴミムシダマシ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
132	ニジイロゴミムシダマシ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	ニジゴミムシダマシの誤記
133	ユミアシゴミムシダマシ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
134	ルリゴミムシダマシ	コウチュウ	ゴミムシダマシ	
135	アカヒゲヒラタコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
136	クロクシコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
137	サビキコリ	コウチュウ	コメツキムシ	
138	トラフコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
139	ウスバコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
140	オオクシヒゲコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
141	オオクログシコメツキ	コウチュウ	コメツキムシ	
142	オオヒラタシテムシ	コウチュウ	シテムシ	
143	オオホシカメムシ	コウチュウ	シテムシ	
144	ジョウカイボン	コウチュウ	ジョウカイボン	
145	スグリゾウムシ	コウチュウ	ゾウムシ	
146	バラゾウムシ	コウチュウ	ゾウムシ	別名クロケシツブチョッキリ
147	アルファルファタコゾウムシ	コウチュウ	ゾウムシ	
148	カキゾウムシ	コウチュウ	ゾウムシ	
149	カシワクチブトゾウムシ	コウチュウ	ゾウムシ	
150	アオマダラタマムシ	コウチュウ	タマムシ	
151	ヤマトタマムシ	コウチュウ	タマムシ	
152	ヨツボシテントウダマシ	コウチュウ	テントウダマシ	
153	アトボシテントウムシダマシ	コウチュウ	テントウダマシ	
154	ツマアカヒメテントウ	コウチュウ	テントウムシ	
155	ナナホシテントウ	コウチュウ	テントウムシ	
156	ナミテントウ	コウチュウ	テントウムシ	
157	ニジュウヤホシテントウ	コウチュウ	テントウムシ	
158	ウスキホシテントウ	コウチュウ	テントウムシ	
159	カシノナガキクイムシ	コウチュウ	ナガキクイムシ	
160	アカハハネカクシ	コウチュウ	ハネカクシ	
161	アカガネサルハムシ	コウチュウ	ハムシ	
162	カミナリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
163	クロウリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
164	クワハムシ	コウチュウ	ハムシ	
165	コガタルリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
166	ジンガサハムシ	コウチュウ	ハムシ	
167	ブタクサハムシ	コウチュウ	ハムシ	
168	ヤナギルリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
169	ヨモギハムシ	コウチュウ	ハムシ	
170	ルリマルノミハムシ	コウチュウ	ハムシ	
171	イモサルハムシ	コウチュウ	ハムシ	
172	ウリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
173	ウロウリハムシ	コウチュウ	ハムシ	
174	コハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	
175	トウキョウヒメハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	
176	ハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	総称
177	ヒメハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	
178	エリザハンミョウ	コウチュウ	ハンミョウ	
179	オバボタル	コウチュウ	ホタル	
180	オオサビキコリ	コウチュウ		

181	ヤマトゴキブリ	ゴキブリ	ゴキブリ	
182	チャバネゴキブリ	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	
183	モリチャバネゴキブリ	ゴキブリ	チャバネゴキブリ	
184	ヤマトシリアゲ	シリアゲムシ	シリアゲムシ	
185	アオスジアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
186	カラスアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
187	キアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
188	クロアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
189	ジャコウアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
190	ナガサキアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
191	ナミアゲハ	チョウ	アゲハチョウ	
192	マツカレハ	チョウ	カレハガ	
193	ウラギンシジミ	チョウ	シジミチョウ	
194	ウラナミアカシジミ	チョウ	シジミチョウ	
195	ウラナミシジミ	チョウ	シジミチョウ	
196	ゴイシジミ	チョウ	シジミチョウ	ゴイシジミの誤記
197	ツバメシジミ	チョウ	シジミチョウ	
198	ベニシジミ	チョウ	シジミチョウ	
199	ミズイロオナガシジミ	チョウ	シジミチョウ	
200	ムラサキシジミ	チョウ	シジミチョウ	
201	ムラサキツバメ	チョウ	シジミチョウ	
202	ヤマトシジミ	チョウ	シジミチョウ	
203	ルリシジミ	チョウ	シジミチョウ	
204	ウスベニスジヒメシャク	チョウ	シャクガ	
205	ウメエダシャク	チョウ	シャクガ	
206	カギシロスジアオシャク	チョウ	シャクガ	
207	クロスジフユエダシャク	チョウ	シャクガ	
208	トビカエバエダシャク	チョウ	シャクガ	
209	トビモンオオエダシャク	チョウ	シャクガ	
210	フタナミトビヒメシャク	チョウ	シャクガ	
211	キタキチョウ	チョウ	シロチョウ	
212	スジグロシロチョウ	チョウ	シロチョウ	
213	ツマキチョウ	チョウ	シロチョウ	
214	モンキチョウ	チョウ	シロチョウ	
215	モンシロチョウ	チョウ	シロチョウ	
216	エビガラスズメ	チョウ	スズメガ	
217	オオスカシバ	チョウ	スズメガ	
218	コエビガラスズメ	チョウ	スズメガ	
219	コスズメ	チョウ	スズメガ	
220	セスジスズメ	チョウ	スズメガ	
221	ヒメクロホウジャク	チョウ	スズメガ	
222	ホシホウジャク	チョウ	スズメガ	
223	アヤモクメキリガ	チョウ	ヤガ	
224	イチモンジセセリ	チョウ	セセリチョウ	
225	オオチャバネセセリ	チョウ	セセリチョウ	
226	キマダラセセリ	チョウ	セセリチョウ	
227	ギンイチモンジセセリ	チョウ	セセリチョウ	
228	ダイミョウセセリ	チョウ	セセリチョウ	
229	チャバネセセリ	チョウ	セセリチョウ	
230	ミヤマセセリ	チョウ	セセリチョウ	
231	ミヤマチャバネセセリ	チョウ	セセリチョウ	
232	アカタテハ	チョウ	タテハチョウ	
233	アカボシゴマダラ	チョウ	タテハチョウ	
234	アサマイチモンジ	チョウ	タテハチョウ	
235	イチモンジチョウ	チョウ	タテハチョウ	
236	ウラナミジャノメ	チョウ	タテハチョウ	西日本棲息
237	キタテハ	チョウ	タテハチョウ	
238	クロコノマチョウ	チョウ	タテハチョウ	
239	コジャノメ	チョウ	タテハチョウ	
240	ゴマダラチョウ	チョウ	タテハチョウ	
241	コムスジ	チョウ	タテハチョウ	

	種名	目名	科名	備考
242	コムラサキ	チョウ	タテハチョウ	
243	サトキマダラヒカゲ	チョウ	タテハチョウ	
244	ジャノメチョウ	チョウ	タテハチョウ	
245	ツマグロヒョウモン	チョウ	タテハチョウ	
246	テングチョウ	チョウ	タテハチョウ	
247	ヒオドシチョウ	チョウ	タテハチョウ	
248	ヒカゲチョウ	チョウ	タテハチョウ	
249	ヒメアカタテハ	チョウ	タテハチョウ	
250	ヒメウラナミジャノメ	チョウ	タテハチョウ	
251	ヒメキマダラヒカゲ	チョウ	タテハチョウ	分布不明
252	ヒメジャノメ	チョウ	タテハチョウ	
253	ミスジチョウ	チョウ	タテハチョウ	
254	ミドリヒョウモン	チョウ	タテハチョウ	
255	ルリタテハ	チョウ	タテハチョウ	
256	ギンツバメ	チョウ	ツバメガ	
257	キアシドクガ	チョウ	ドクガ	
258	ノンネマイマイ	チョウ	ドクガ	
259	マイマイガ	チョウ	ドクガ	
260	アカハネナガウシカ	チョウ	ハネナハウシカ	
261	クロハネシロヒゲナガ	チョウ	ヒゲナガガ	
262	カノコガ	チョウ	ヒトリガ	
263	キハダゴマダラヒトリ	チョウ	ヒトリガ	キハラゴマダラヒトリ
264	マダラマルハヒロズコガ	チョウ	ヒロズコガ	
265	シロシタホタルガ	チョウ	マダラガ	
266	ホタルガ	チョウ	マダラガ	
267	チャミノガ	チョウ	ミノガ	
268	ミノムシ	チョウ	ミノガ	ミノガの別称
269	アケビコノハ	チョウ	ヤガ	
270	キバラモクメキリガ	チョウ	ヤガ	
271	コシロシタバ	チョウ	ヤガ	
272	シマケンモン	チョウ	ヤガ	
273	シロシタバ	チョウ	ヤガ	
274	トモエガ	チョウ	ヤガ	
275	フクラスズメ	チョウ	ヤガ	
276	ウスタビガ	チョウ	ヤママユガ	
277	オオミズアオ	チョウ	ヤママユガ	
278	ヤママユ	チョウ	ヤママユガ	
279	ヨツメトビケラ	トビケラ	フトヒゲトビケラ	
280	アオモンイトトンボ	トンボ	イトトンボ	
281	アジアイトトンボ	トンボ	イトトンボ	
282	クロイトトンボ	トンボ	イトトンボ	
283	オニヤンマ	トンボ	オニヤンマ	
284	ニホンカワトンボ	トンボ	カワトンボ	カワトンボの誤記
285	ハグロトンボ	トンボ	カワトンボ	
286	ウチワヤンマ	トンボ	サナエトンボ	
287	コオニヤンマ	トンボ	サナエトンボ	
288	ダビドサナエ	トンボ	サナエトンボ	
289	ヤマサナエ	トンボ	サナエトンボ	
290	アキアカネ	トンボ	トンボ	
291	ウスバキトンボ	トンボ	トンボ	
292	オオシオカラトンボ	トンボ	トンボ	
293	コシアキトンボ	トンボ	トンボ	
294	コノシメトンボ	トンボ	トンボ	
295	シオカラトンボ	トンボ	トンボ	
296	シオヤトンボ	トンボ	トンボ	
297	チョウトンボ	トンボ	トンボ	
298	ナツアカネ	トンボ	トンボ	
299	ノシメトンボ	トンボ	トンボ	
300	ミヤマアカネ	トンボ	トンボ	
301	コヤマトンボ	トンボ	ヤマトンボ	
302	カトリヤンマ	トンボ	ヤンマ	
303	ギンヤンマ	トンボ	ヤンマ	
304	サラサヤンマ	トンボ	ヤンマ	固有種

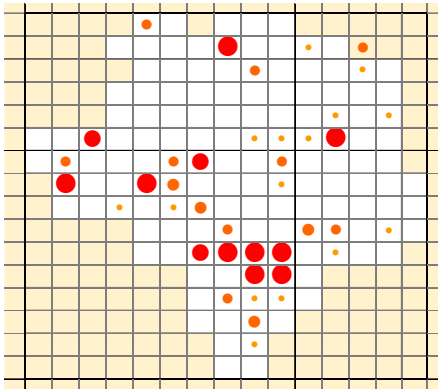
305	エダナナフシ	ナナフシ	ナナフシ	
306	ナナフシモドキ	ナナフシ	ナナフシ	
307	ヤスマツトビナナフシ	ナナフシ	ナナフシ	
308	マダラホソアシナガバエ	ハエ	アシナガバエ	
309	クロアシソソケバエ	ハエ	ケバエ	
310	ショウジョウバエ	ハエ	ショウジョウバエ	
311	クロバネツリアブ	ハエ	ツリアブ	
312	ヌカカ	ハエ	ヌカカ	総称
313	ヒサマツハチモドキハナアブ	ハエ	ハナアブ	
314	ホソヒラタアブ	ハエ	ハナアブ	
315	ミナミヒメヒラタアブ	ハエ	ハナアブ	
316	アミアアブ	ハエ	ムシヒキアブ	アオメアブの誤記
317	オオイシアブ	ハエ	ムシヒキアブ	
318	シオヤアブ	ハエ	ムシヒキアブ	
319	ガガンボ	ハエ		総称
320	ヒゲジロハサミムシ	ハサミムシ	ハサミムシ	
321	ホシゲジロハサミムシ	ハサミムシ	ハサミムシ	
322	クロオオアリ	ハチ	アリ	
323	トゲアリ	ハチ	アリ	
324	ムネアカトゲコマユバチ	ハチ	コマユバチ	
325	オオスズメバチ	ハチ	スズメバチ	
326	キイロスズメバチ	ハチ	スズメバチ	
327	コアシナガバチ	ハチ	スズメバチ	
328	コガタスズメバチ	ハチ	スズメバチ	
329	モンズズメバチ	ハチ	スズメバチ	
330	スズバチ	ハチ	ドロバチ	
331	オオハキリバチ	ハチ	ハキリバチ	
332	クマバチ	ハチ	ミツバチ	
333	セイヨウオオマルハナバチ	ハチ	ミツバチ	外来種
334	セイヨウミツバチ	ハチ	ミツバチ	移入種
335	チュウレンジバチ	ハチ	ミツバチ	移入種
336	トラマルハナバチ	ハチ	ミツバチ	
337	ニホンミツバチ	ハチ	ミツバチ	
338	マルハナバチ	ハチ	ミツバチ	
339	オンブバッタ	バッタ	オンブバッタ	
340	マダラカマドウマ	バッタ	カマドウマ	
341	ウスイロササキリ	バッタ	キリギリス	
342	キリギリス	バッタ	キリギリス	
343	クサキリ	バッタ	キリギリス	
344	クビキリギス	バッタ	キリギリス	
345	ササキリ	バッタ	キリギリス	
346	ハヤシノウマオイ	バッタ	キリギリス	
347	ヤブキリ	バッタ	キリギリス	
348	クツウムシ	バッタ	クツウムシ	
349	ケラ	バッタ	ケラ	
350	エンマコオロギ	バッタ	コオロギ	
351	ツヅレサセコオロギ	バッタ	コオロギ	
352	ハラオカメコオロギ	バッタ	コオロギ	
353	ミツカドコオロギ	バッタ	コオロギ	
354	セスジツユムシ	バッタ	ツユムシ	
355	ツユムシ	バッタ	ツユムシ	
356	イボバッタ	バッタ	バッタ	
357	クルマバッタ	バッタ	バッタ	
358	クルマバッタモドキ	バッタ	バッタ	
359	コバネイナゴ	バッタ	バッタ	
360	ショウリョウバッタ	バッタ	バッタ	
361	ツチイナゴ	バッタ	バッタ	
362	トノサマバッタ	バッタ	バッタ	
363	ハネナガイナゴ	バッタ	バッタ	
364	ハラヒシバッタ	バッタ	ヒシバッタ	
365	ヒメバッタ	バッタ	ヒシバッタ	
366	アオマツムシ	バッタ	マツムシ	

4. クモ

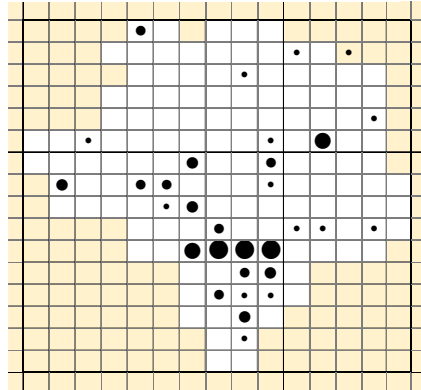
クモは脚が8本、体節は頭胸部と腹部の二部のみで、触覚がないなどの点で昆虫と区別されます。今回の報告では右表のように33種、157件のクモが寄せられています。クモは樹間、草間、家の中、水辺、地中と色々な所に生息しています。クモは網を張るものと思われがちですが、網を張るのはほぼ半数で、後の半数は網を張らずに動き回って獲物を捕まえます。ほとんどのクモでメスの方が大きくオスは半分くらいのサイズです。

次にクモの分布を見てみましょう。左図はクモ全体の分布ですが、南部の雑木林エリアに多く、あとは伊佐沼、水上公園、北部の有機田んぼのある所に目立ちます。右図は報告数の半数を占めるジョロウグモの分布ですが、おおむね全体分布と重なっています。

クモ全体の分布



ジョロウグモの分布



番号	種名	報告数
1	ジョロウグモ	73
2	ナガコガネグモ	12
3	コガネグモ	10
4	イオウイロハシリグモ	9
5	サツマノミダマシ	6
6	アシナガグモ	4
7	チュウガタコガネグモ	4
8	オニグモ	3
9	ウズグモ	3
10	ウロコアシナガグモ	2
11	ギンメッキゴミグモ	2
12	キクヅキコモリグモ	2
13	イモコモリグモ	2
14	ハリゲコモリグモ	2
15	トガリアシナガグモ	2
16	クサグモ	2
17	マミジロハエトリ	2
18	ワカバグモ	2
19	キマダラコガネグモ	1
20	ハシリグモ	1
21	ゴミグモ	1
22	シロカネグモ	1
23	ワスレナグモ	1
24	コモリグモ	1
25	オナガグモ	1
26	アオオニグモ	1
27	アズチグモ	1
28	イエオニグモ	1
29	イシサワオニグモ	1
30	ジグモ	1
31	スジアカハシリグモ	1
32	ドヨウオニグモ	1
33	ヒラタグモ	1

以下に報告数上位の4種と、特徴的な種について紹介します。

ジョロウグモ

体長はメス17~30mmでオス6~13mm。オスの方が小さく、交尾後メスに喰われることもあるそう。メスは腹部に黄色、赤、緑青色の模様があり、「上臈」「女郎」のようにキレイという意味の名前。都市部の人家の庭から山地の林道溪流迄広く生息し、立体的な円網を張る。雑木林では秋に歩くと、うっかり網にかかることが多い。



ヒカゲチョウを捕える
ジョロウグモのメス

※24 コモリグモは総称？

ナガコガネグモ

体長：メス20~25mm、オス6~12mm。
平地の草間や低木間に垂直の正常円網を張り、縦にジグザグのリボン状の隠れ帯をつける。体はコガネグモより細長い。



左写真はメス
中写真はジグザグ状の隠れ帯



ナガコガネグモの卵囊

コガネグモ (準絶滅危惧種)

体長：メス 20～30mm、オス 4～6mm。腹部は幅広く黄色と黒の横縞がある。林の周辺や山道などに、X字型の白い隠れ帯をつけた円網を張り、その中央部に脚を2本ずつそろえてとまる。発見例は少なくないが、ブルーニングによる飛来等でその年限りの生息確認地も多く、安定した生息地自体は少ない。



多くの種では、子グモが糸を出し風に吹かせて、[タンポポの種子](#)のように空を飛ぶ「[ブルーニング](#)」という習性を持つ。小型の種では、成虫でもそれを行うものがある。この飛行能力により、クモは他の生物よりもいち早く生息地を拡大することができる。Wikipedia より

イオウイロハシリグモ



体長：メス 12～26mm、オス 12～18mm。徘徊性で雑木林の草や低木の葉上で脚を広げて獲物を待つ。色彩は個体により変異に富む。危険を感じると素早く草間に逃げ込む。卵嚢は口にくわえて運ぶ。

イシサワオニグモ



体長：メス 18～20mm、オス 8mm。山地性で、腹部背面の両肩部から先端にかけ白い筋がある。個体は色彩変異が多い。昼間は網の一端を折り曲げそこに潜む

マミジロハエトリ



体長：メス 7～8mm、オス 6～7mm。頭胸部の前縁を横切る眉のような白い毛「眉白」(マミジロ)がある。ハエトリグモは前中眼がヘッドライトの様に大きく眼がよく見える。壁や葉上を飛び回り獲物を探す。8眼2爪でガラス面も歩ける。

ギンメッキゴミグモ



体長：メス 3.5～7mm、オス 3～4mm。垂直の正常円網の中心に頭を上にしてとまる。中央部にゴミを並べるものもある。腹部の色彩も黒色から銀色迄ある。

ジグモ



体長：メス 12～20mm、オス 10～17mm。樹木や草の根元、石垣の下部等に地上から地下まで続く管状(袋状)の住居を作り地上部表面には土を付着させる。成体の住居の長さは10～15センチで地上部の上を獲物が歩くと上がってきて袋越しに噛みつき袋を破って中に引き込む。

アズチグモ



体長：メス 6～8mm、オス 2.2～3.5mm。腹部は台形。サングラスを掛けたような顔で花の中や葉裏に前脚を広げて潜み小さな飛翔性昆虫を捕える。体色は白色だが黄色い花の近くでは黄色に擬態することがある。

キクヅキコモリグモ



体長：メス 7～12mm、オス 6～8mm。水田やじめじめした草地に住む。ツマグロヨコバイなどの水田害虫を捕獲する。敵に追われると水上を走り水草を使い水中に逃げ込む。菊月(9月)に孵化した子グモが親の背中に乗るのでこの名がついた。

ワスレナグモ



(準絶滅危惧種)

体長：メス 15～20mm、オス 5～8mm。畑、草地、芝生、植込みの縁などの地面に深さ10～30cmの穴を掘って中に潜む。入り口に扉は付けない。穴の内側は大量の糸で裏打ちされている。糸で巣穴をふさぐことがある。夜間入口に出てきて通りかかる昆虫などを捕える。

クモは多種多様な大きなグループを形成しており、生態の複雑さ、巧妙さに魅せられる人も多いと聞きます。すべて肉食であるため、農業における害虫対策としても取り入れられています。糸の強さも近年注目されています。クモの一端に関心を持っていただけると幸いです。

5. 爬虫類

爬虫類の報告は193件、メッシュ数は79箇所でした。殆どが県のレッドリスト掲載種で、緊急対策外来種が1種ありました。分布は川越市のほぼ全域にわたっていますが、カナヘビがかなり広範囲にいることが理由と思われる。

	種名	カテゴリー	観察数	メッシュ
1	ニホンカナヘビ	地帯別危惧(RT)	83	28
2	ミシシippアカミミガメ	緊急対策外来種	47	17
3	アオダイショウ	絶滅危惧Ⅱ類(NT2)	24	12
4	ニホンヤモリ		19	9
5	ニホントカゲ	絶滅危惧Ⅱ類(NT2)	9	6
6	スッポン	情報不足(DD)	6	4
7	ヒバカリ	絶滅危惧Ⅱ類(NT1)	3	1
8	イシガメ	情報不足(DD)	1	1
9	シマヘビ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	1
			193	79

ニホンカナヘビ

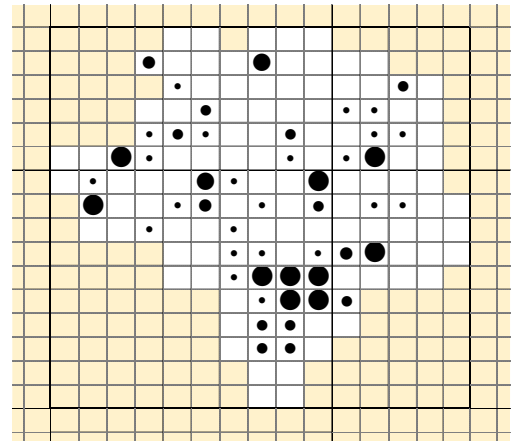


体長 20cm 前後、体色は背面：灰褐色～褐色、腹面：黄白色～黄褐色で艶がない。尾が体長の3分の2あり細長い。樹林、公園や人家の庭等に生息し昆虫やクモ、ワラジムシ等を捕食し木にも登る。

ニホントカゲ



体長 15～25cm、体色は金色がかった黄褐色で側面に黒褐色の線が走る。尾の長さは全長の半分。昼行性。動作は素早く用心深い。草地、山林に生息し、昆虫、ミミズ等を捕食。垂直のコンクリート壁等を登る。2012年から関東から北のものはヒガシニホントカゲといわれるようになった。



爬虫類の分布

アオダイショウ



全長 100～200cm、体色は青みがかった褐色～草色で胴に不明瞭な縦条模様を持つことがある。幼体はマムシ模様に似る。側稜を使い木に登る。森林、畑、人家周辺等様々な所にて、ネズミ、カエル、鳥類等を捕獲する。昼行性。冬眠する。

ニホンヤモリ



体長は 10～14cm、灰色～灰褐色で、模様がある。体は細かい鱗に覆われ、指先が丸い形をした5本の足先は吸着性があり垂直のガラス面でも移動できる。森よりも人の生活環境の近くに住み、夜行性でクモやワラジムシ等を食べる。

ミシシippアカミミガメ



甲羅の長さは約 30cm 位まで大きくなる。食性は植物食の強い雑食性。イシガメ、クサガメと違い頭部両側に橙赤色の斑紋がある。多様な水域に生息し塩分への抵抗力も高いので、淡水と海水の混じり合う汽水域にも進出する。

スッポン



甲長 20～25cm、最大 38.5cm。甲は平たく表面の甲板は消失し、黒斑模様のオリーブ色か灰色の柔らかな皮膚で覆われる。首は長く鼻の先の肉質部分がシュノーケルの様に伸びているので、浅い水場では砂泥に沈んだまま呼吸できる。緩やかな流れの河川、湖沼に生息し、動物食の強い雑食性で淡水魚偶に水草も食べる。歯はなく強力な顎で噛みつく。

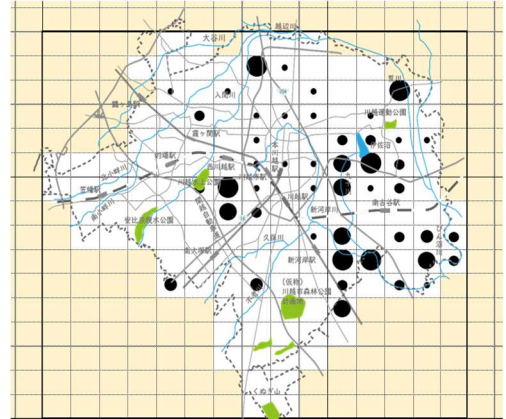
カナヘビは樹林地、草原、家の庭など広く生息しています。ヤモリは家守と言われるように、家屋の隙間によくいますが、写真は森の巣箱をすみかにしていたものです。ミシシippアカミミガメは新河岸川沿い、調節池など、“どこにでもいる”という印象です。個体数は相当な数でしょう。その分イシガメ、スッポンなど外来種はほとんど見なくなりましたが、たまに小畔川での魚類調査でかかります。

6. 両生類

水中でも陸上でも生きることができるカエルやイモリ、サンショウウオのことをいいます。粘膜におおわれた皮膚ひふで呼吸を行い、周りの温度とともに体温が変わる変温動物です。この度の調査では報告数は127件、種数は8種で、すべてカエルの仲間でした。下図の分布図を見ると東部の水田地帯や河川の周辺など、当然ながら水辺に近いところに生息しています。

右表は報告数のランキングですが、アマガエルとニホンアマガエルは同義ですので、実際はニホンアマガエルがナンバー1ということになります。また、トノサマガエルは関西に生息し、関東にはトウキョウダルマガエルという棲み分けになっています。

	名前	報告数
1	トウキョウダルマガエル	36
2	アマガエル	26
3	ニホンアマガエル	22
4	ウシガエル	16
5	ヌマガエル	16
6	ニホンアカガエル	6
7	アズマヒキガエル	2
8	シュレーゲルアオガエル	2
9	トノサマガエル	1



カエルの分布図 大きい●は5以上

トウキョウダルマガエル

(準絶滅危惧種)

体長4~8.5 cm 体色は個体ごとにさまざま。緑色系が多いが灰褐色や茶褐色のものもいる。トノサマガエルと似た色彩や模様だが背中の黒い斑点は、それぞれ独立し、重なりあわないことが多い。腹部が大きく後肢が短くずんぐりとして、ダルマのように見えたのが名前の由来。水田や池、沼などに生息。

ニホンアマガエル

体長2.2~4.5 cm 国内の最も広い地域で見られる。体色は背中が緑色で、鼻先から鼓膜の後ろまで黒っぽい帯状の模様が入る。環境によって体の色を変化させることができる。皮膚から分泌される物質には毒性がある。小さな昆虫や虫を食べるが、生きたものしか食べない。公園や人家の庭、水田などに生息。

ウシガエル

体長11.5~18 cm 国内にすむ最大のカエル。鳴き声が牛の声に似ていたのが名前の由来。「食用がえる」としても有名。北アメリカ原産。大正時代にアメリカから輸入され全国のカエル養殖場に広がっていった。国内では食材として定着せず放置されたものが野生化した。体色は個体ごとにさまざま。緑色の地色に茶褐色や暗褐色の虎斑模様が入るものが多い。平野から低山の川や沼などの水辺に生息。

ニホンアカガエル

体長3.5~7.5 cm 日本の固有種。体色は背中が黄土色から赤褐色までさまざま。アカガエルの名はあるが、赤みは強くても小豆色程度。背中の両側に平行に走る背側線がある。低地から丘陵地帯の水田や湿地周辺の草地に生息。

ヌマガエル

体長2.8~5.4 cm 体色は背中の地色は薄茶色や灰色で、暗色のまだら模様が入る。背中に1本の縦筋が入るものもいる。腹が白いのが特徴。自然分布は関西であるが近年関東に侵入、国内外来種。平野から低山の沼や水田に生息。

アズマヒキガエル

体長7~13 cm 体色は個体ごとにさまざま。背中は茶褐色、黄土色、赤褐色など。白と黒または茶褐色の帯状の模様が入るもの、まったく模様のないものもいる。鼓膜あたりから脇腹にかけて赤い斑点をもつものも多くこの斑点が背中に広がるものもいる。平野、山地、高山の畑や森林などの物かげや落葉の下などに生息。

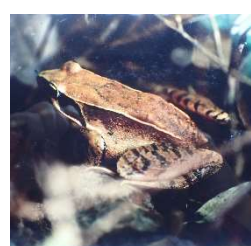
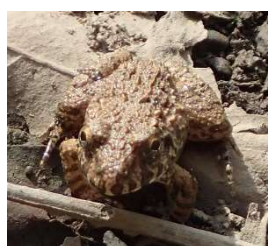
トウキョウダルマガエル

アズマヒキガエル

ヌマガエル

ニホンアカガエル

ウシガエル



7. 哺乳類

川越で野生の哺乳類に出会うのは相当難しいです。アライグマは様々に被害を及ぼして害獣として、年間100頭以上が捕獲されています。それ以外の哺乳類は、タヌキがひょっこり出てくるか、夕刻飛び始めるコウモリくらいでしょう。今回の報告は8種、38件でした。

アブラコウモリ



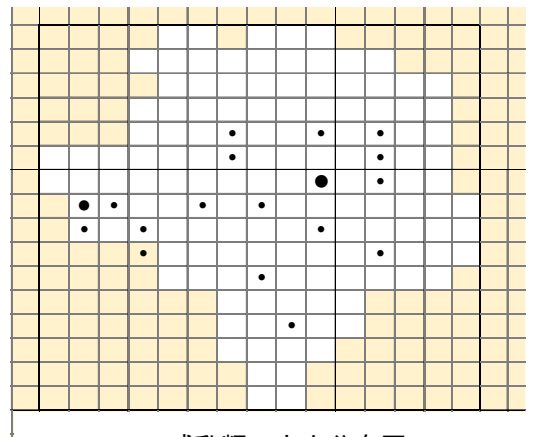
体長4~6cm 体の上面は灰茶色、下面は灰黄色。イエコウモリとも呼ばれている。夜行性で、日没前後に河原や田んぼの上をジグザグに不規則に飛び回りながら小さな虫を捕える。

ニホンイタチ



体長19~30cm 体は細長く赤褐色。夜行性で小動物を捕食。敵におそわれると悪臭を放って逃げる。河川の流域や池の近くに生息。写真のイタチは寺尾調節池近くの新河岸川河川敷で。

種名	観察数	メッシュ
アブラコウモリ	19	6
ニホンイタチ	7	5
ホンドタヌキ	6	5
ニホンイノシシ	3	3
アライグマ	3	3
ホンドキツネ	2	2
ニホンザル	1	1
モグラ	1	1



哺乳類の市内分布図

ホンドタヌキ



体長50~80cm 目の周りが黒い。ずんぐりした体つきでアライグマと間違われることもある。雑食性で植物のほか、昆虫、両生類、魚類なども食べる。夜行性。平地から山地の森林や草原の他、湿地帯など水辺でも多く生息。

ホンドキツネ



体長60~75cm 細長い鼻先と三角形の大きな耳、背は赤みがかかった褐色。ふさふさの太くて長い尾、尾の先が白色。平地から低山に生息。市への報告は西の日高市に近いところから。以前、荒川の河川敷での目撃情報があった。

アズマモグラ



体長10~16cm 毛色は黒褐色。手は外を向き手のひらは大きく頑丈。目は退化している。土を隆起させ、農作物に害を与える。地中にトンネルを作り、ミミズや昆虫を食べる。姿はほとんど見られないが林の中で土を盛り上げた「モグラ塚」はよく遭遇する。

アライグマ



特定外来生物

体長50~55cm 目のまわりが黒く尾に黒色と茶色の横縞が5本ずつ交互につく。雑食性。近年日本各地で飼われていたものが放棄され野生化した。林、神社、農園、空き家など出没し被害を与えている。水辺に水を飲みに来たり魚を捉えたりする。画像：市のホームページより

川越の北西部は次第に丘陵、山地へと繋がっていますので、時折ニホンジカを目撃があります。越生などではイノシシ、ニホンジカの被害が出ていますので、川越にもでてくるかもしれません。

今回の報告にはありませんでしたが、ネズミの類は相当いると思われます。犬や猫のペットが圧倒的に多く野生の哺乳類にはあまり目が向きませんね。



関東のはアズマモグラ。関西はコウベモグラが生息



アライグマの足跡は肉球がないので5本指の形がそのまま残る。水辺でよく見かける。

8. 魚類・水生生物

川越市には入間川、新河岸川、不老川、小畔川など荒川水系の一級河川が10河川、その他に市が管理している準用河川や田んぼの用水路など多くの水辺があります。水辺には多くの水生生物が生息していますが、河川改修工事による瀬や淵の消失や河床の平坦化、並びに用水路のコンクリート化等の影響により自然水域が消失し水生生物にとっての良好な生息環境が激減しています。外来種の増加圧力も在来種の存続を脅かしています。

今回の生き物調査で、水生生物は、魚類について19種、魚類以外では21種の報告がありました。

魚類				魚類以外の水生生物					
科	種名	外来絶滅	メッシュ	報告件数	目・科	種名	外来絶滅	メッシュ	報告件数
コイ	オイカワ		4	6	トンボ目 <ヤゴ>	サナエトンボ		1	2
	カマツカ		3	3		コオニヤンマ		1	1
	モツゴ		2	3		コヤマトンボ		1	1
	タモロコ		3	3		ハグロトンボ		1	2
	アブラハヤ		2	2		ミヤマカワトンボ		1	1
	コイ		1	1		イトトンボ		1	1
	ギンブナ		2	3	トビケラ目	ウルマーシマトビケラ		1	1
	カワムツ	国内	1	1		ヒゲナガカワトビケラ		1	1
	ニゴイ		1	1	カゲロウ目	シロタニガワカゲロウ		1	1
	タイリクバラタナゴ	国外	1	1		キロカワカゲロウ		1	1
ドジョウ	ドジョウ		12	18	ハエ目	ガガンボ		1	1
	シマドジョウ		1	1	コウチュウ目	ヒラタドロムシ		1	1
ナマズ	ナマズ		4	4	エビ目	ヌカエビ	NT2	5	7
キウリウオ	アユ		1	1		ヌマエビ		1	1
	メダカ		6	18		テナガエビ		2	2
ハゼ	トウヨシノボリ		1	1		スジエビ		3	3
サンフィッシュ	オオクチバス	国外	1	1		モクズガニ		1	1
	コクチバス	国外	2	2		アメリカザリガニ	国外	12	14
ギギ	ギバチ		1	1	シジミ科	マシジミ		1	1
8	19		49	71	タニシ科	マルタニシ	VU	5	6
						ヒメタニシ		1	1
(注)					8	21		43	50
・国内→国内外来種(国内のもとも生息していない地域に人為的に持ち込まれた生物種)									
・国外→国外外来種(国外から人為的に持ち込まれた生物種)									
・VU→絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している)									
・NT2→準絶滅危惧2類(種の存続への圧迫が強まっている)									

【魚類】

川の中・下流域に生息する魚類が報告されています。

報告件数の多いものはドジョウ、メダカで、川、池沼、水路等生息範囲が広いことが報告件数の多い要因と思われます。メダカは6メッシュで報告されていますが、これらが在来種のミナミメダカであれば埼玉県レッドリスト掲載種となりますが、種名が不明なことからレッドリスト掲載種の表示は省いています。

一般河川ではオイカワが最も多く報告されていますが、砂地を好むカマツカや一般にクチボソと呼ばれるモツゴなども比較的多く報告されています。外来種は4種の報告がありますが、そのうち国外外来種が3種、国内外来種が1種です。国内外来種であるカワムツの自然分布地域は西日本ですが、現在では関東地方から東北地方の一部まで分布を拡大しています。なお、コイについては在来種の「野鯉」または外来種の「真鯉」の2種類がいると一般的に言われていますが、今回の調査では種名が不明なため外来種の表示は省いています。

【外来種】 かつこ内は元々の生息地

- ・タイリクバラタナゴ (アジア大陸東部)
- ・オオクチバス・コクチバス (北アメリカ)
- ・カワムツ (西日本)

【魚類以外の水生生物】

魚類以外の水生生物ではトンボのヤゴとエビ類が比較的多く報告されています。外来種として掲載したものはアメリカザリガニ1種です。レッドリスト掲載種はヌカエビとマルタニシがそれぞれ5メッシュで報告されています。両種とも流水が緩いまたは流水がない地域を好み、ヌカエビは産卵場所として抽水植物を利用し、マルタニシは水田や小河川の泥底等に生息します。これらの生物を保護するには、水路のコンクリート化や、農業による水質汚染などを防ぎ、自然水域の保全に配慮する必要があります。

流れの緩やかな砂礫底場所ではマシジミが確認されています。川の中の石を手に取り裏返せば、カゲロウやトビケラ等の幼虫など様々な水中生物が観察できます。秋には下流に向かうモクズガニが小畔川で確認されています。

【外来種】 カッコ内は元々の生息地

・アメリカザリガニ（北アメリカ南部）

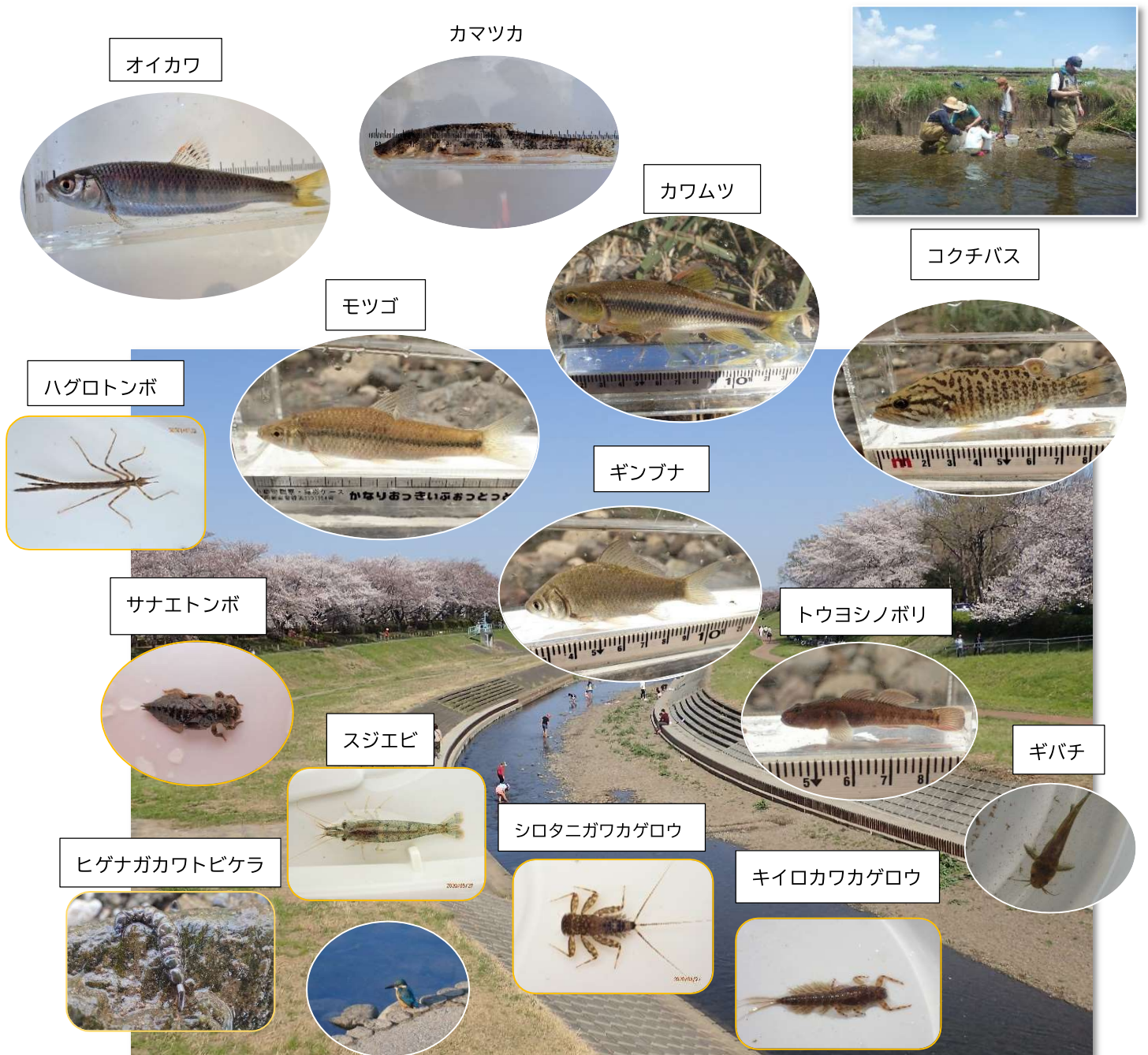
【埼玉県レッドリスト掲載種】

・マルタニシ ヴ（絶滅危惧Ⅱ類）

・ヌカエビ NT2（準絶滅危惧Ⅱ類）

※ ・淡水域に生息するミシシippアカミミガメ等カメ類は「爬虫類」、ヨコエビ、ウマビル等の端脚類、環形類は「その他」を参照

小畔川で調査された魚類など



9. その他の動物

市民から「節足動物 8 件」、「軟体動物 6 件」、「環形動物 2 件」、「扁形動物 3 件」の報告がありました。これらを「その他の動物」として記載します。これらはえてして夜行性で、ジメジメした所に生息し地味なので生物調査の対象にはなりにくいのかも知れません。又半数は種名ではなく総称等でした。分布図を見ると南部の雑木林、水上公園からの報告が多いようですが、観察者がよく出向くところで、特にここに多いのではないようです。いくつか特徴を記載します。

トビズムカデ



節足動物 体長 8~15cm (稀に 20cm)、赤い頭に黄色い脚、朱色の頭と脚を持つ等個体により違いがある。湿った雑木林にいるが敏捷で人家にも侵入する。毒を持つ顎で噛みつくこともある。

ヒダリマキマイマイ



軟体動物 殻高 3cm 殻径 5cm 程の艶はないが滑らかな黄褐色~褐色の左巻きの殻を持つ。地上~樹上の湿った所にいて苔、茸枯葉等を歯舌でこそげ取るように食べる。

マクラギヤスデ



節足動物 体長 2 cm ほど。細く短い多数の脚を持ち刺激を受けると丸まったり不快臭を出す。くすんだ茶色の長い小判型で線路の枕木の様な形。落ち葉が堆積した湿気のあるところにいて草食性で朽木等を食べる。

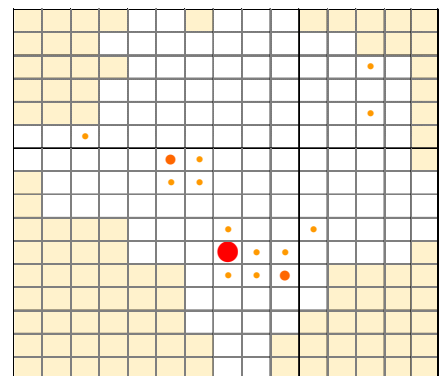
ヤマナメクジ



軟体動物 体長 20 cm にもなる日本最大のナメクジで山地に生息。キノコを好んで食べる。雌雄同体なので交尾の際は互いに精子を注入し、その後それぞれが受精卵を産卵する。この写真はその交尾シーン。川越市森林公園計画地で撮影。たまたま遭遇する。

	分類	報告名	観察数
1	節足動物	ゲジ(総称)	7
2	節足動物	トビズムカデ	7
3	節足動物	マクラギヤスデ	7
4	節足動物	ダンゴムシ(総称)	6
5	軟体動物	カタツムリ(通称)	5
6	軟体動物	ナメクジ(総称)	3
7	環形動物	ミミズ(総称)	3
8	軟体動物	キセルガイ(総称)	2
9	扁形動物	クロイロコウガイビル	2
10	軟体動物	ヒダリマキマイマイ	2
11	環形動物	ウマビル	1
12	扁形動物	オオミスジコウガイビル	1
13	扁形動物	コウガイビル(総称)	1
14	節足動物	ザトウムシ(総称)	1
15	軟体動物	ミスジマイマイ	1
16	節足動物	ムカデ(総称)	1
17	節足動物	ヤスデ(総称)	1
18	軟体動物	ヤマナメクジ	1
19	節足動物	ヨコエビ(総称)	1

その他の動物の市内分布



ダンゴムシ 節足動物

オカダンゴムシは人家周辺の落ち葉や石の下で見つかる。コシビロダンゴムシは森の中。どちらも 1~1.5 cm、1 対の触覚と 7 対の脚。光沢のある紫紺色の長い小判型で危険を感じると丸まる。夜行性雑食性で湿気のある所にいる。よく似たワラジムシは丸まらずに逃げる。



殆どを土中や土の近くで過ごす土壌生物は落葉、倒木、動物の排泄物、死骸等を食べ、粉々にして微生物をも動きやすくし、フカフカの土を作り森を再生する大切な役割を果たしています。侵入生物データベースのチャコウラナメクジ、近年食害が懸念されるマダラコウジナメクジもいます。カタツムリやナメクジには肺があり、ミミズ、カタツムリ、ナメクジ、コウガイビルの仲間は雌雄同体です。活動域の狭いキセルガイの仲間は RD が多いようです。名前を特定しながら探すと楽しいかも知れません。

10. 菌類

生き物調査を始めた当初はキノコ・菌類の報告はありませんでしたが、3年目ころから「その他」の項に報告が上がるようになり、「菌類」の項目を別途設けることになりました。かわごえ環境ネットでは「キノコの観察会」を例年行っており、かなりのデータ蓄積がありますので、2017年からのデータを追加しました。川越の野生のキノコは多くの種類が「(仮称)川越市森林公園」計画地(川森と略)に存在し、10年間では400種以上の記録がありますが、今回の報告は2017年以降なので200種ほどでした。

キノコは木の子とも言われるように樹木との関係が深く、地域や森林の構成樹種によりキノコの種類や発生量は異なると思われます。川越には雑木林が点在しますが、川森には落葉広葉樹が多く、発生するキノコもそれに応じた種類ということになります。雑木林以外では神社やお寺の森、農家の屋敷林、畑や休耕地、道端の草の中等にも顔を出します。

今回の報告は大部分が川森のメッシュコードからで、他には水上公園、安比奈親水公園のメッシュからの報告がありました。

カワラタケ



ヒロタケ



チチタケ



マンネンタケ



フサヒメホウキタケ



ムラサキヤマドリタケ



1	アイバカラハツモドキ	61	クリゲノチャヒラタケ	121	ネンドタケモドキ
2	アイバシロハツ	62	クロアザアワタケ	122	ノウタケ
3	アオゾメタケ	63	クロコブタケ	123	ハカワラタケ
4	アカヒダワカフサタケ	64	クロチチダマシ	124	ハナウロコタケ
5	アカヤマドリ	65	クロハツ	125	ハナオチバタケ
6	アシグロタケ	66	ケショウハツ	126	ハナガサイグチ
7	アシボソトマヤタケ	67	コキララタケ	127	ヒロタケ
8	アセハリタケ	68	コゲチャイロガワリ	128	ヒロロベニヒダタケ
9	アナタケ	69	コショウイグチ	129	ヒカゲウラベニタケ
10	アマタケ	70	コツブチャツムタケ	130	ヒダサカズキタケの1種
11	アミガサタケ	71	コテングタケモドキ	131	ヒトクチタケ
12	アミスギタケ	72	サケバタケ	132	ヒナアンズタケ
13	アラゲカワラタケ	73	サビハチノスタケ	133	ヒノキオチバタケ
14	アラゲキクラゲ	74	サビハチノスタケの1種	134	ヒビワレシロハツ
15	アワタケ	75	シハイタケ	135	ヒメカタショウロ
16	イタチタケ	76	シロオニタケ	136	ヒメカバイロタケ
17	イタチナミハタケ	77	シロキクラゲ	137	ヒメキクラゲ
18	イヌセンボンタケ	78	シロコメバタケ	138	ヒメコガネツルタケ
19	イロガワリ	79	シロニセトマヤタケ	139	ヒメコナカブリツルタケ
20	ウコンクサハツ	80	シロベンキタケ	140	ヒメコンイロイッポンシメジ
21	ウコンハツ	81	シロホウライタケ属の1種	141	ヒメショウロ
22	ウスキモリノカサ	82	スエヒロタケ	142	ヒメフサホウキタケ
23	ウチワタケ	83	スジオチバタケ	143	ヒメホウライタケ
24	ウラベニガサ	84	スミゾメヤマイグチ	144	ヒメワカフサタケ
25	ウラムラサキ	85	センベイタケ	145	ヒロヒダタケ
26	エゴノキタケ	86	ダイダイガサ	146	フクロツルタケ
27	エビウラタケ	87	タマキクラゲ	147	フサヒメホウキタケ
28	オオキノハダトマヤタケ	88	タマゴタケ	148	ブドウニガイグチ
29	オオシロカラカサタケ	89	タマゴテングタケモドキ	149	ベニヒダタケ
30	オオツルタケ	90	タンボタケモドキ	150	ヘビキノコモドキ
31	オオホウライタケ	91	チチタケ	151	ホウキタケ
32	オオミノコフキタケ	92	チャウロコタケ	152	ホウネンタケ
33	オサムシタンボタケ	93	チャカイガラタケ	153	ホウロクタケ
34	オシロイタケ	94	チャコブタケ	154	ホコリタケ
35	オチバタケ	95	チャナメツムタケ	155	マツオウジ
36	オツネンタケ	96	チャヒラタケ	156	マントカラカサタケ
37	オニイグチ	97	ツチイロチチタケ	157	マンネンタケ
38	オリブサカズキタケ	98	ツチカブリ	158	ミダレアマミタケ
39	カイガラタケ	99	ツチグリ	159	ミドリスギタケ
40	カバイロツルタケ	100	ツノフリタケ	160	ミナミコメバタケ
41	カミカワタケ	101	ツノマタタケ	161	ミノタケsp.
42	カミホウライタケ	102	ツヤウチワタケ	162	ムラサキホコリ
43	カレバキツネタケ	103	ツヤウチワタケモドキ	163	ムラサキヤマドリタケ
44	カワラタケ	104	ツルタケ	164	モリノカレバタケ
45	カワリハツ	105	テングタケ	165	ヤケアトツムタケ
46	キアシグロタケ	106	テングツルタケ	166	ヤケイロタケ
47	キウロコタケ	107	ドクツルタケ	167	ヤブレベニタケ
48	キクラゲ	108	ドクベニタケ	168	ヤマジノカレバタケ
49	キコガサタケ	109	ドクベニダマシ	169	ヤマドリタケモドキ
50	キタマゴタケ	110	ナカグロモリノカサ	170	ワライタケ属の1種
51	キタマゴダケ	111	ナラタケモドキ		
52	キチャツsp.	112	ニオイコベニタケ		
53	キチャハツ	113	ニオコベニタケ		
54	キツネタケ	114	ニガクリタケ		
55	キツネノハナガサ	115	ニクウスバタケ		
56	キニガイグチ	116	ニセアンペニイグチ		
57	キノモミウラタケ	117	ニセショウロ		
58	クジラタケ	118	ニッケイタケ		
59	クヌギタケ	119	ヌルデタケ		
60	クヌギタケ属の1種	120	ネンドタケ		

川越のキノコについては冊子「川越の自然を訪ねてーきのご編」をご覧ください。問い合わせ：環境政策課（049-224-5866）

おわりに

川越は住みやすい街という声を聞きます。交通や買い物の利便性、歴史的な遺構や蔵造の街並み、このような要素は外部からの観光客も引き寄せています。しかし、住む人々にとってはほどよい自然があるからではないでしょうか。少し足を延ばせば雑木林、河川、田んぼなど開けた風景が広がり、ほっと一息できます。

このような身近な自然に分け入り、生き物調査をしたのがこの報告です。朝から夕方まで一つのメッシュで頑張ったこともあります。隣の自治体との境界あたりは立ち入るのも難しいところがあります。そんなこんなで多くのデータが集まり、川越の自然もなかなか奥が深いことがわかりました。まだまだ、探す楽しみはつきませんので、是非多くの方が調査情報をお寄せいただければと思います。その方法は市のホームページに掲載されています。

また、次世代のお子さん方に自然に触れる楽しさを伝えてください。遺された自然を守っていくには、市民の理解、発言、発信が不可欠です。

2022年2月26日 かわごえ環境ネット自然環境部会 賀登 環



報告書をまとめるにあたり、植物分野では牧野彰吾氏、昆虫分野では新井浩二氏にご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。

報告書まとめメンバー

藍谷理恵子 池田雄二 内野威三雄 賀登環 菊地節子
過昌司 稗島英憲 宮澤宏次 森田たか子

発行：かわごえ環境ネット自然環境部会
事務局：川越市環境政策課
TEL 049-224-5866



小畔川 御伊勢橋付近

2022年2月26日発行

